

**平成23年度被災地における石綿によるばく露に関する調査業務
報告書**

平成 24 年 3 月

エム・アール・アイ リサーチアソシエイツ株式会社

はじめに

平成 23 年 3 月 11 日に発生しました東日本大震災により、被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げますとともに、亡くなられた方々の御冥福をお祈り申し上げます。

今回の大震災では、建築物の倒壊等により、石綿（アスベスト）の飛散が懸念されていることから、大気濃度調査や防じんマスク着用の周知徹底など、石綿の飛散及びばく露防止のための対策が進められているところです。

現在までのところ、がれき集積所などでは通常の大気環境の状況と大きな変化はないことが確認されていますが、石綿による健康被害は、石綿を吸ってから非常に長い年月（35 年前後）を経て発症することから、被災地の現状について情報収集を行うことが将来の健康相談の実施等に役立つものと考えられます。このため、被災地域に居住し被災された方々に、石綿ばく露に関連する情報である被災前の職歴や被災後の居住歴、避難所での生活の様子等をおたずねするアンケートを実施することとしました。

本調査は環境省より委託を受け、エム・アール・アイ リサーチアソシエイト株式会社が実施致しました。

概 要

○ 調査目的

被災地での石綿ばく露の現状を把握するため。

○ 調査地域

調査は、被害が著しい岩手県、宮城県及び福島県の3県の市町村のうち、陸前高田市、宮古市、大船渡市、石巻市、仙台市、東松島市、亘理町、南相馬市、相馬市及びいわき市の10市町で実施した。

○ 調査対象者

調査は、仮設住宅に居住している方を対象に実施した。

○ 調査方法

調査は、質問紙を用いた調査員による個別面接（集会所での面接もしくは訪問面接）を原則として、一部、留め置きを併用した。

○ 調査期間

調査は、平成24年2月18日（土）から平成24年3月4日（日）の間の土曜日及び日曜日に行った。

○ 調査結果

326名から回答を得た。なお、調査結果の取りまとめにあたっては、調査方法の違いを区別せずに行った。

➤ 被災前のばく露状況

被災前の職業で、回答者の認識として「アスベスト」または「石綿」を取り扱ったことが「あると思う」方が15名（7.2%）確認された。また、取扱った職業（作業）に従事していた年数については「1年未満」が最も多いが、「20年以上」の方も数名確認された。

➤ 被災直後の石綿ばく露に関連する状況

地震発生時にいた場所は「自宅」が最も多かった。被害状況は地震による被害よりも津波による被害の方が大きかったと回答した方が多かった。

また、避難先は「教育施設（保育園・幼稚園・学校）」が最も多く、30分以内に避難した方は212名（65.0%）で、「自家用車で避難した」方が半数を超えた。

さらに、避難行動時に「石綿ばく露歴把握のための手引」（厚生労働省、平成17年度）の石綿自記式簡易調査票に記載のある施設の近くを通過もしくは見た方は半数程度であった。

➤ 避難後の石綿ばく露に関連する状況

被災地域での作業状況について伺ったところ、「大半の時間を避難生活場所（仮設住宅を除く）の屋内で過ごした」が189名（58.0%）と最も多かった。

建物が倒壊した地域へ「立ち入りをしていた」方は7割以上で、3月中は「1週間に2、3回程度」立ち入ったが最も多く、4、5月（GW前後）では「半月に1回程度」が最も多い。6月以降は「期間中に立ち入っていない」が最も多い。

立ち入りの主目的は、期間を問わず「その他」が最も多く、次いで「自宅や周辺のがれきの撤去・運搬」、「倒壊家屋への立ち入り」と続く。「その他」の詳細は、3月中、6、7月（お盆前）及び8～12月は「家などの様子を見る」が最も多い。一方、4、5月中（GW前後）は「荷物・家財道具探し・持ち出し」が最も多い。

また、立ち入りした際に実施した項目は「その他」が最も多く、次いで「自宅や周辺のがれきの撤去・運搬」、「倒壊家屋への立ち入り」と続く。「その他」の詳細は「家などの様子を見る」が最も多いが、内容は多岐にわたる。

さらに、活動形態は期間を問わず「自主的な活動（団体等に属さない活動）」が最も多く、従事時間も「1時間未満」が最も多い。

➤ 石綿（アスベスト）に関する意識

アスベストに関して、9割以上が「知っている」もしくは「聞いたことがある」と回答しており、そのうち9割以上の方が震災前から「知っている」もしくは「聞いたことがある」と回答している。情報の入手時期としては2000年代が105名（37.5%）と最も多く、情報の入手元としては「テレビ」が8割弱と最も多い。

身の回りにアスベストがあるのを「見たことがある」もしくは「あると思う」との認識をもっている方は113名（34.7%）であった。具体的には「壁」が43名（38.1%）と最も多く、次いで「学校（保育園、幼稚園、その他教育施設等）」（40名、35.4%）、「天井」（36名、31.9%）と続く。

また、被災後に被災後にアスベスト対策について「見た、もしくは聞いたことがある」方は3割弱（84名）で、情報の入手時期は7月以降が31.0%（26名）と最も多く、震災発生から1ヶ月以内に入手した方は半数弱であった。その際、初めて情報を入手した先としては「テレビ」が27.4%（23名）と最も多く、その内容はアスベストの処理に関するものや、アスベストの危険性に関するもの、アスベストの吸入防止のための対処法などと多岐にわたる。その情報を受けて行動する際に「気をつけたことがあった」方は4割程度（33名）で、具体的な内容としてはマスクの着用が7割以上（21名）と最も多かった。

目 次

1. 調査概要	1
1.1 調査目的.....	1
1.2 調査地域.....	1
1.3 調査対象者	2
1.4 調査方法.....	3
1.5 調査期間.....	4
1.6 調査内容.....	5
1.7 有効回答数.....	6
2. 調査結果	7
2.1 回答者の属性	7
2.1.1 性別	7
2.1.2 年代	8
2.2 被災前のばく露状況.....	9
2.2.1 生活歴	9
2.2.2 居住歴.....	11
2.2.3 職歴	14
2.2.4 まとめ.....	17
2.3 被災直後の石綿ばく露に関連する状況	18
2.3.1 地震発生時にいた場所.....	18
2.3.2 避難方法.....	20
2.3.3 避難場所等	21
2.3.4 まとめ.....	24
2.4 避難後の石綿ばく露に関連する状況.....	25
2.4.1 避難場所での過ごし方等.....	25
2.4.2 建物が倒壊した地域への立ち入り状況.....	27
2.4.3 被災地域での作業状況.....	28
2.4.4 まとめ.....	35
2.5 石綿（アスベスト）に関する意識	36
2.5.1 被災前の石綿（アスベスト）に関する情報入手状況	36
2.5.2 アスベストに関する意識.....	40
2.5.3 被災後のアスベスト対策に関する情報入手状況	42
2.5.4 まとめ.....	49
3. まとめ.....	50
参考資料 1 挨拶状	
参考資料 2 調査票	

1. 調査概要

1.1 調査目的

東日本大震災による被災地においては、建築物の倒壊や膨大な災害廃棄物処理等により、石綿による将来の健康被害が懸念されている。石綿による健康被害はばく露から数十年後に発症するものであり、震災後の被災地における石綿ばく露の状況を把握しておくことは将来のリスク管理のために重要と考えられる。このため、現地での被災者に聞き取り調査を行うことにより、被災地での石綿ばく露の現状を把握した。

1.2 調査地域

調査は、被害が著しい岩手県、宮城県、福島県の3県を対象に実施した。石綿の多くはこれまで建材として建築物に使用されており、建築物の倒壊によって石綿が飛散した可能性があること、倒壊の多くは津波の被害によって生じたと推測されることから、浸水面積及び倒壊戸数の双方を指標とし、これらの指標がともに上位にある10市町を対象とした。

表1 各県における浸水面積及び建築物の倒壊戸数

県	市区町村	浸水面積 (km ²)	倒壊戸数
岩手県	陸前高田市	13	3,341
	宮古市	10	4,675
	大船渡市	8	3,629
宮城県	石巻市	73	22,603
	仙台市	52	68,920
	東松島市	37	9,261
	亘理町	35	3,494
福島県	南相馬市	39	5,657
	相馬市	29	1,692
	いわき市	15	27,122

(浸水面積は国土地理院、倒壊戸数は各県の調査結果による。)

1.3 調査対象者

調査は、仮設住宅に居住している方を対象に実施した。

仮設住宅の選定にあたっては、がれき処理及び建築物等の解体作業の状況などを鑑み、津波被害の浸水地域により近い地域における石綿ばく露の可能性が高まることが予想されたことから、浸水地域により近い仮設住宅を優先的に選定し、当該仮設住宅に居住する成人男女を対象とした。

表 2 仮設住宅の選定方法

ステップ	内容
ステップ 1 (～1月中旬)	環境省より 10 自治体に対して、以下の条件を満たす仮設住宅を 5 箇所程度、情報提供いただけるよう依頼。 ・調査の実施について自治体の了承をいただける仮設住宅 ・調査対象市町に設置された仮設住宅の中で、津波による浸水区域により近い仮設住宅
ステップ 2 (～2月中旬)	自治体からの情報提供内容をもとに、受託者にて以下の条件を満たす仮設住宅を絞り込み。 ・被調査回数が少ない仮設住宅 ・規模の大きな仮設住宅
ステップ 3 (～2月末)	ステップ 2 にて絞り込んだ仮設住宅について、調査実施のための事前調整を行った。調整内容は以下のとおり。なお、自治会長から依頼があった場合には事前に往訪のうえ調整を行った。 ・調査の実施について自治会長もしくは当該仮設住宅を担当している自治体職員 ¹ の了承をいただく ・調査期間内に調査を実施する

¹ 自治会が形成されていない仮設住宅もあったため、当該地点については、当該仮設住宅を担当している自治体職員と調整を行った。

1.4 調査方法

調査は、質問紙を用いた調査員による個別面接（集会所での面接もしくは訪問面接）を原則として、一部、留め置きを併用²した。

表3 調査地点及び調査方法

県	市区町村	調査地点	調査方法
岩手県	陸前高田市	県立高田高等学校第2グラウンド	留置
	宮古市	鍬ヶ崎児童公園	訪問面接
		宮古市立鍬ヶ崎小学校グラウンド及び跡地	訪問面接
	大船渡市	大船渡市立大船渡中学校グラウンド	集会所での面接
宮城県	石巻市	万石浦公園	留置
	仙台市	仙台港背後地6号公園	訪問面接
	東松島市	矢本運動公園	訪問面接
	亶理町	亶理町中央工業団地	集会所での面接
		亶理町公共ゾーン	集会所での面接
		中央公民館南広場	集会所での面接
		宮城県蚕業試験場本部跡地	集会所での面接
福島県	南相馬市	南相馬市小池長沼	集会所での面接
	相馬市	相馬市北飯渕	訪問面接 集会所での面接
		いわき市	いわき市高久第一

² 調査計画段階での事前調整の際に、自治会長より留置法による調査実施を強く依頼された地点については留置法とした。留置法は面接法に比べ、回答内容の精度が落ちることが懸念されるが、調査票の回収時に回答内容を確認させてもらうなどにより、できる限り面接法の回答精度に近づけるよう努めた。

1.5 調査期間

調査は、平成 24 年 2 月 18 日（土）から平成 24 年 3 月 4 日（日）の間の土曜日及び日曜日に行った。休日に調査を行ったのは、主に以下の理由によるものである。

- ・平日の仮設住宅には高齢者の在室率が高く、調査結果に偏りが生じるおそれがあること
- ・平日の仮設住宅は不在率が高く、目標回答数を得られないおそれがあること

表 4 調査地点別調査日

県	市区町村	調査地点	調査日
岩手県	陸前高田市	県立高田高等学校第 2 グラウンド	2/18、2/19
	宮古市	鍬ヶ崎児童公園	3/3、3/4
		宮古市立鍬ヶ崎小学校グラウンド及び跡地	3/3、3/4
	大船渡市	大船渡市立大船渡中学校グラウンド	2/19
宮城県	石巻市	万石浦公園	2/18、2/19
	仙台市	仙台港背後地 6 号公園	3/4
	東松島市	矢本運動公園	3/3、3/4
	亶理町	亶理町中央工業団地	2/25
		亶理町公共ゾーン	2/25
		中央公民館南広場	2/26
宮城県蚕業試験場本部跡地		2/26	
福島県	南相馬市	南相馬市小池長沼	2/25
	相馬市	相馬市北飯渕	3/3
	いわき市	いわき市高久第一	3/4



(陸前高田市)



(宮古市)



(仙台市)



(東松島市)



(亶理町)



(いわき市)

1.6 調査内容

石綿の多くはこれまで建材として建築物に使用されており、建築物の倒壊によって石綿が飛散した可能性があることを踏まえ、調査は、被災前のばく露歴、被災直後の石綿ばく露に関連する状況及び避難後の石綿ばく露に関連する状況などに関する内容とした。詳細は以下のとおり。

<調査項目>

- 基本情報（性別・年齢）
- 被災前のばく露に関連する状況
 - ・職歴、居住歴、生活歴等
- 被災直後の石綿ばく露に関連する状況
 - ・被災直後にいた場所
 - ・避難方法等
- 避難後の石綿ばく露に関連する状況
 - ・避難場所での過ごし方
 - ・建物が倒壊した地域への立ち入り状況
 - ・建物が倒壊した地域での作業状況
- 石綿（アスベスト）に関する意識
 - ・被災前後のアスベストに関する情報入手状況等

調査項目の検討にあたっては、厚生労働省が平成17年度に取りまとめた「石綿ばく露歴把握のための手引」を参考とした。また、既存調査との重複を避け、調査対象者が回答する際に過度な負担を強いるものにならないよう、分量等に留意して作成した。作成した調査票を参考資料2に示す。

なお、調査内容の検討等にあたり、以下の3名の有識者から適宜指導を受けた。

表5 有識者一覧（順不同）

氏名（敬称略）	所属	専門など
神山 宣彦	東洋大学大学院経済学研究所 客員教授	専門：労働衛生工学 環境省「石綿の健康影響に関する検討会」委員、厚生労働省「東日本大震災アスベスト対策合同会議」委員長など
安達 修一	相模女子大学 教授	専門：環境保健学、公衆衛生学 環境省「環境リスク評価委員会健康リスク評価分科会」委員など
名古屋 俊士	早稲田大学理工学術院 教授	専門：作業環境工学、大気環境工学、労働衛生工学 厚生労働省「東日本大震災アスベスト対策合同会議」委員など

1.7 有効回答数

調査は計 250 名程度から回答を得られるよう、1 仮設住宅あたり平均 25 名程度の回答を目標とした。

その結果、326 名から回答を得た。調査地点別の回収状況は以下のとおり。

表 6 調査地点別回収状況

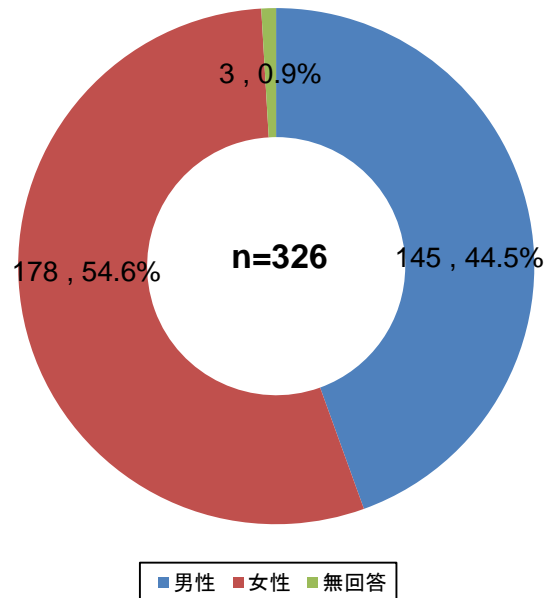
県	市区町村	調査地点	戸数	訪問数	回収数	不在	拒否
岩手県	陸前高田市	県立高田高等学校第 2 グラウンド	148	50	39	6	4
	宮古市	鍬ヶ崎児童公園	20	20	18	0	2
		宮古市立鍬ヶ崎小学校グラウンド 及び跡地	30	29	18	8	3
	大船渡市	大船渡市立大船渡中学校グラウンド	138	-	23	-	-
宮城県	石巻市	万石浦公園	101	31	31	0	0
	仙台市	仙台港背後地 6 号公園	100	71	32	28	11
	東松島市	矢本運動公園	371	262	55	169	38
	亶理町	亶理町中央工業団地	272	-	6	-	-
		亶理町公共ゾーン	558	-	16	-	-
		中央公民館南広場	95	-	5	-	-
		宮城県蚕業試験場本部跡地	116	-	16	-	-
福島県	南相馬市	南相馬市小池長沼	200	-	26	3	3
	相馬市	相馬市北飯渕	206	39	24	13	2
	いわき市	いわき市高久第一	189	-	17	-	-
計			2,544	502 ³	326	227	63

³ 訪問面接の場合には「訪問数＝回収数＋不在＋拒否」の関係となるが、集会所による面接も行っているため、合計欄については「訪問数＝回収数＋不在＋拒否」とはならない。

2. 調査結果⁴

2.1 回答者の属性

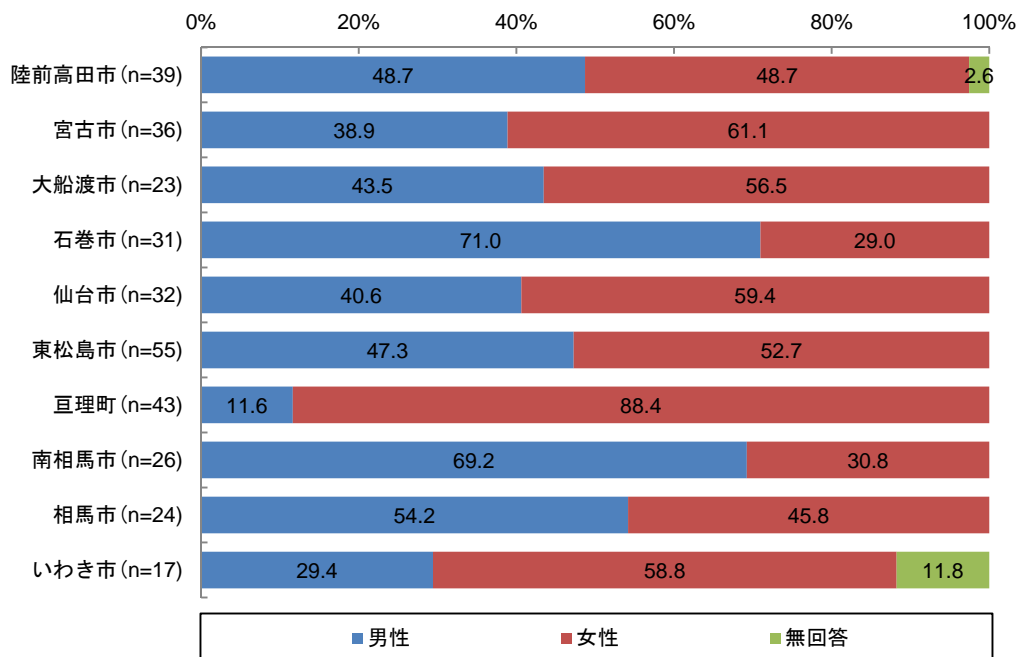
2.1.1 性別



全体としては女性の方がやや多かった。

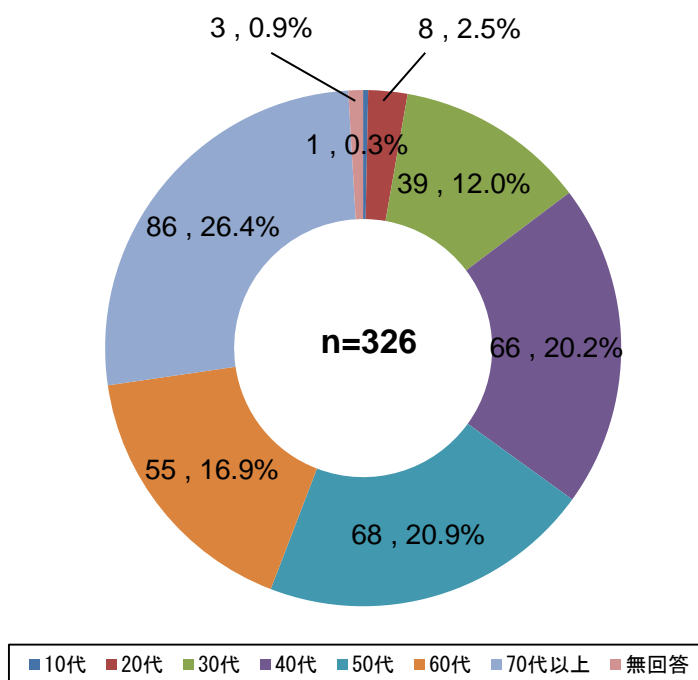
市町村別にみると、石巻市では男性が約 7 割だったが、亶理町では女性が約 9 割だった。

《属性別集計》



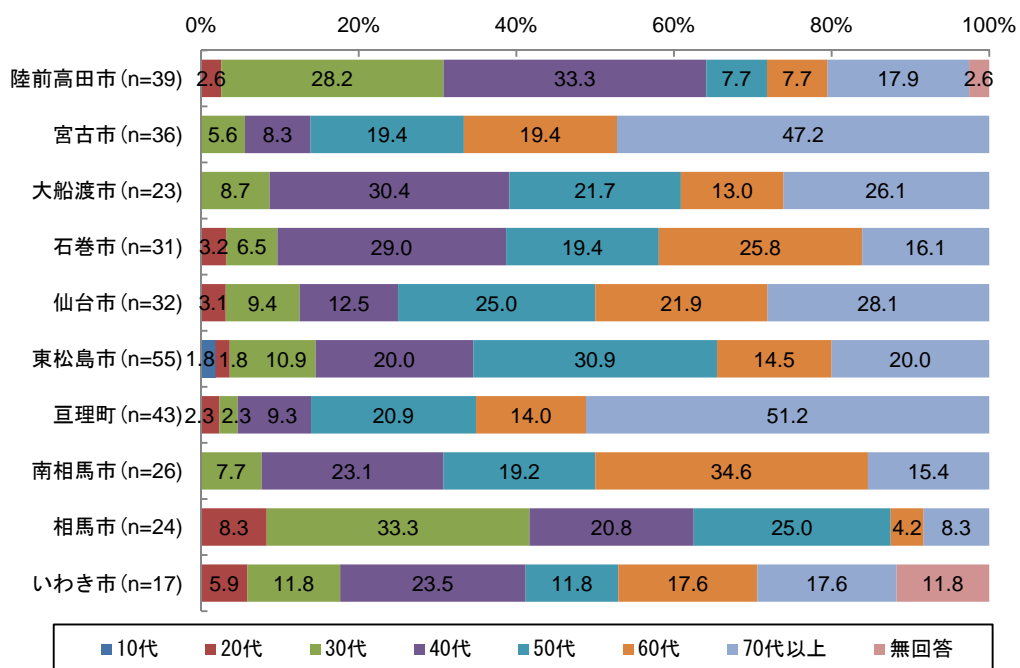
⁴ 調査結果の取りまとめにあたっては、調査方法の違いを区別せずに行った。

2.1.2 年代



全体としては70代以上が最も多い（3割弱）が、50代以下が占める割合は5割を超える。市町別にみると、宮古市及び亶理町では70代以上が占める割合が高い。

《属性別集計》

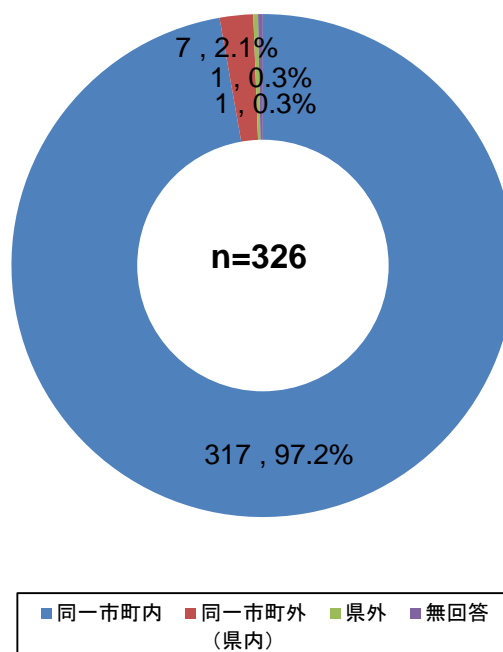


2.2 被災前のばく露状況

2.2.1 生活歴

問1 被災前の居住地域をご回答ください。【〇は1つ】

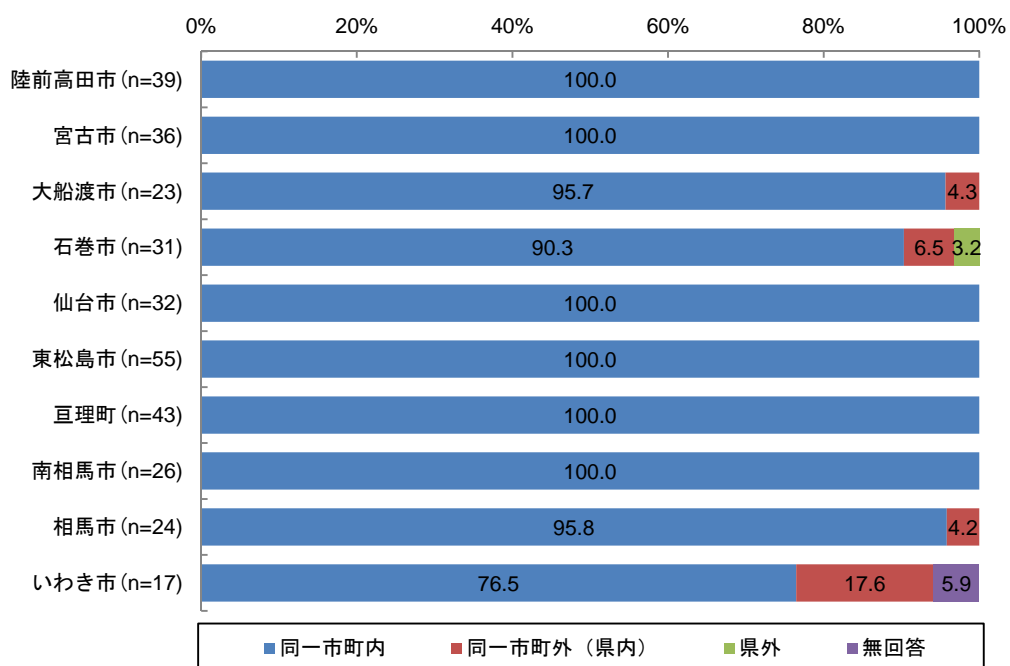
(被災前：居住地域)



全体としては9割以上の方が被災前後で居住地は変わっていない。

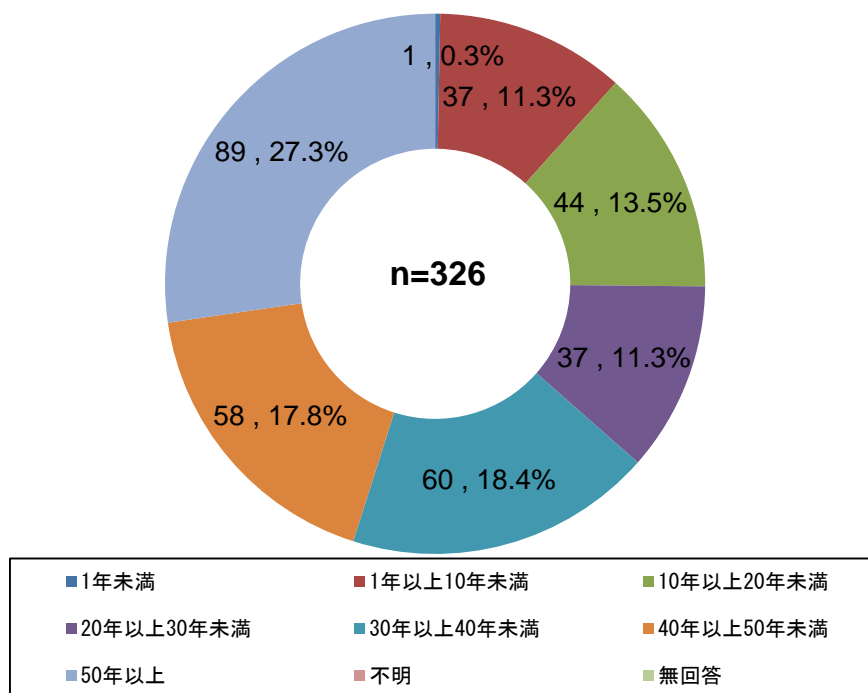
市町別にみると、いわき市及び石巻市では、被災後に県内の他の市町村や県外から居住地を変更された方が1割程度いた。

《属性別集計》



問2 被災前の居住地に住んでいた年数をご回答ください。【〇は1つ】

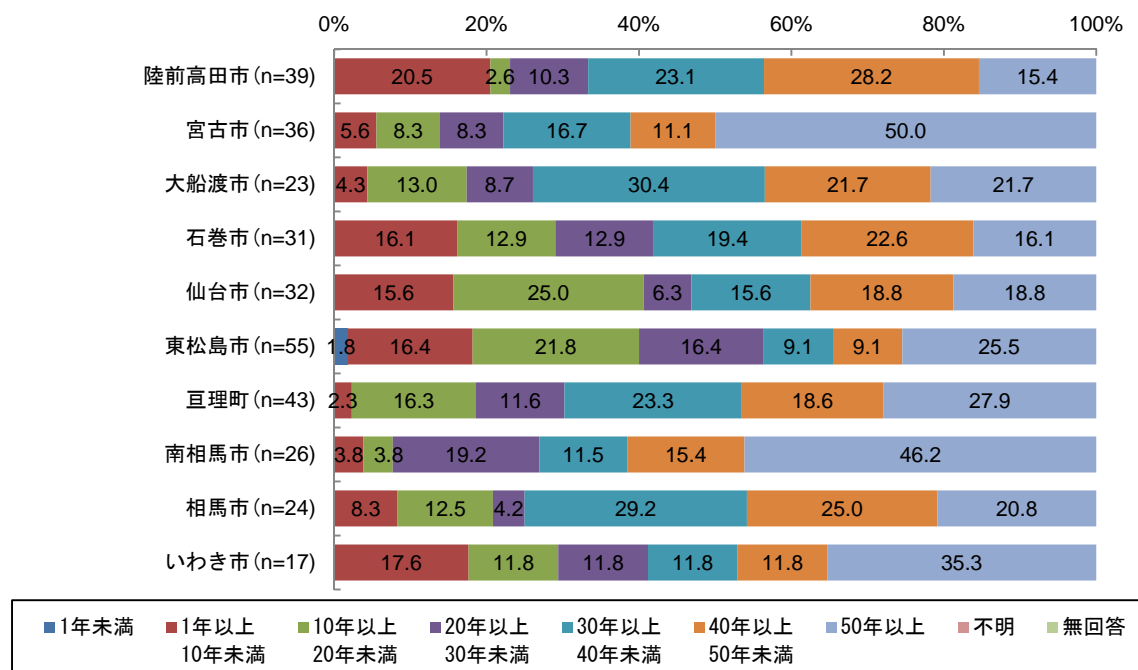
(被災前：居住年数)



被災前の居住地に住んでいた年数としては「50年以上」が89名と最も多く、3割弱であった。

市町別にみると、宮古市、南相馬市及びいわき市では「50年以上」が占める割合が高い。

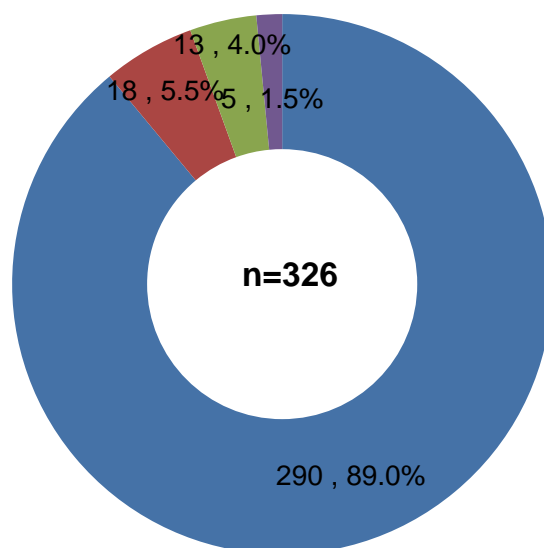
《属性別集計》



2.2.2 居住歴

問3 被災前の居住家屋の構造をご回答ください。【〇は1つ】

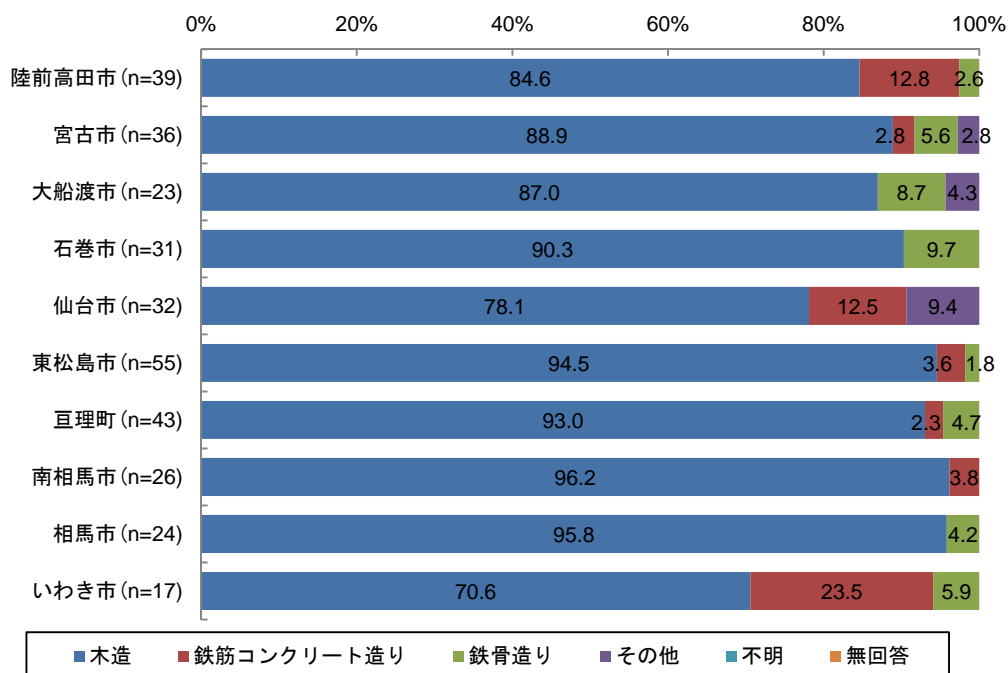
(被災前：住居構造)



被災前に住んでいた家屋の構造は「木造」が約9割（290名）と最も多い。

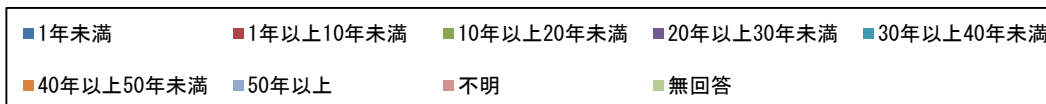
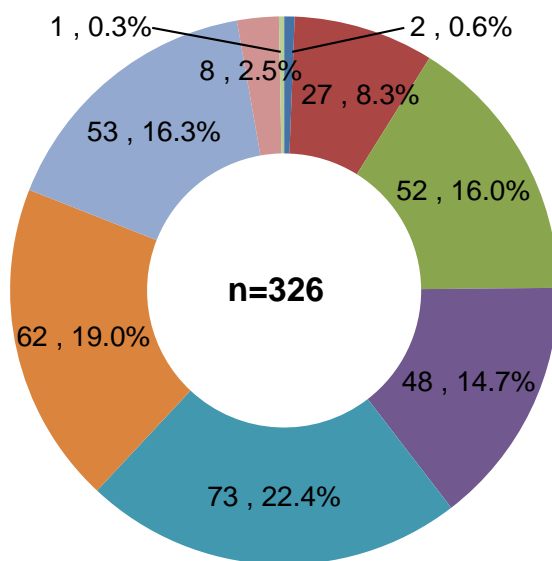
市町別にみると、仙台市及びいわき市では「木造」以外が占める割合が2割を超える。

《属性別集計》



問4 被災前の居住家屋の築年数をご回答ください。【〇は1つ】

(被災前：築年数)



被災前に居住していた家屋の築年数は「30年以上 40年未満」が最も多く、石綿が大量に輸入使用されていた1990年頃までに建てられた建物（築20年以上）が占める割合は7割を超える。

市町別にみると、陸前高田市では「1年以上 10年未満」が占める割合が全体と比較して高い。

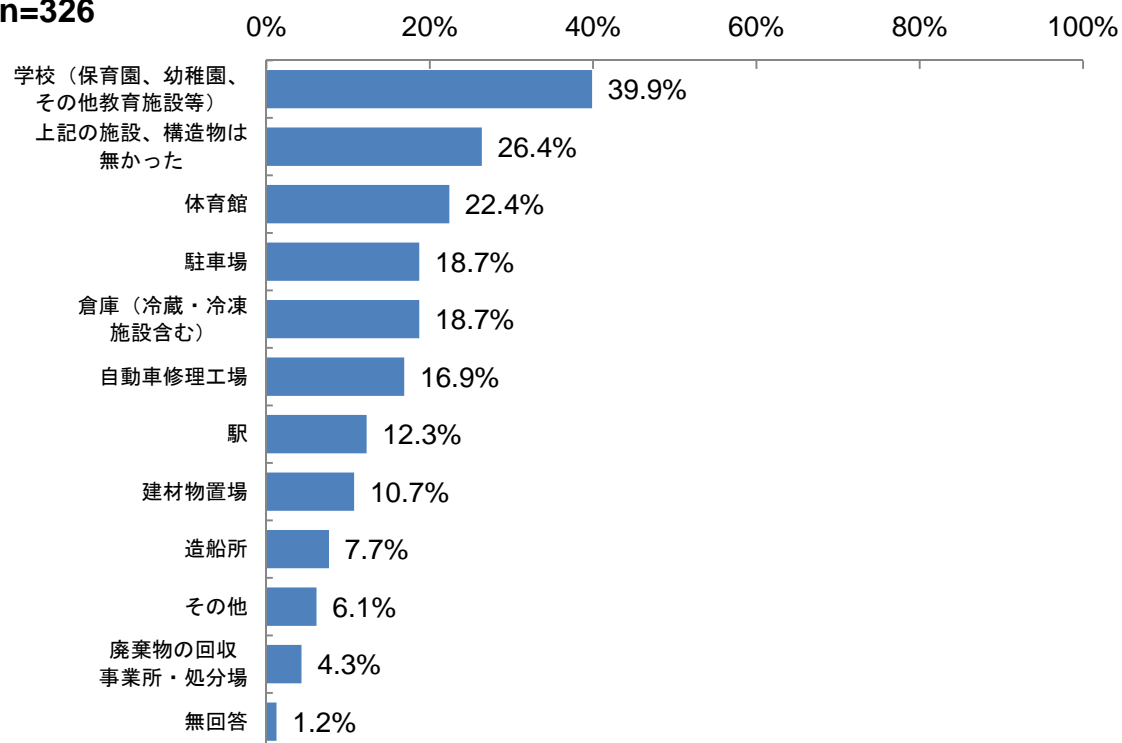
《属性別集計》



問5 被災前の居住家屋周辺で以下の施設、構造物等が近くにありましたか。【○は該当するものいくつかでも】

(被災前：居住家屋周辺にあった施設)

n=326

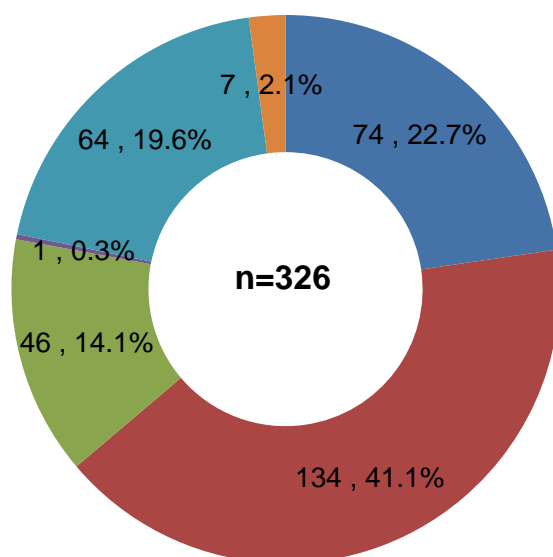


被災前の居住家屋周辺に「上記の施設、構造物は無かった」のは 86 名 (26.4%) であった。また、被災前の居住家屋周辺にあった施設としては「学校 (保育園、幼稚園、その他教育施設等)」が 130 名 (39.9%) と最も多く、次いで「体育館」(73 名、22.4%)、「駐車場」(61 名、18.7%)、「倉庫 (冷蔵・冷凍施設含む)」(61 名、18.7%) と続く。

2.2.3 職歴

問6 被災前の職業をご回答ください。【〇は1つ】

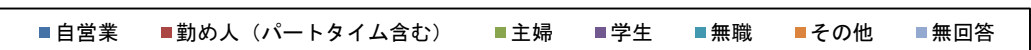
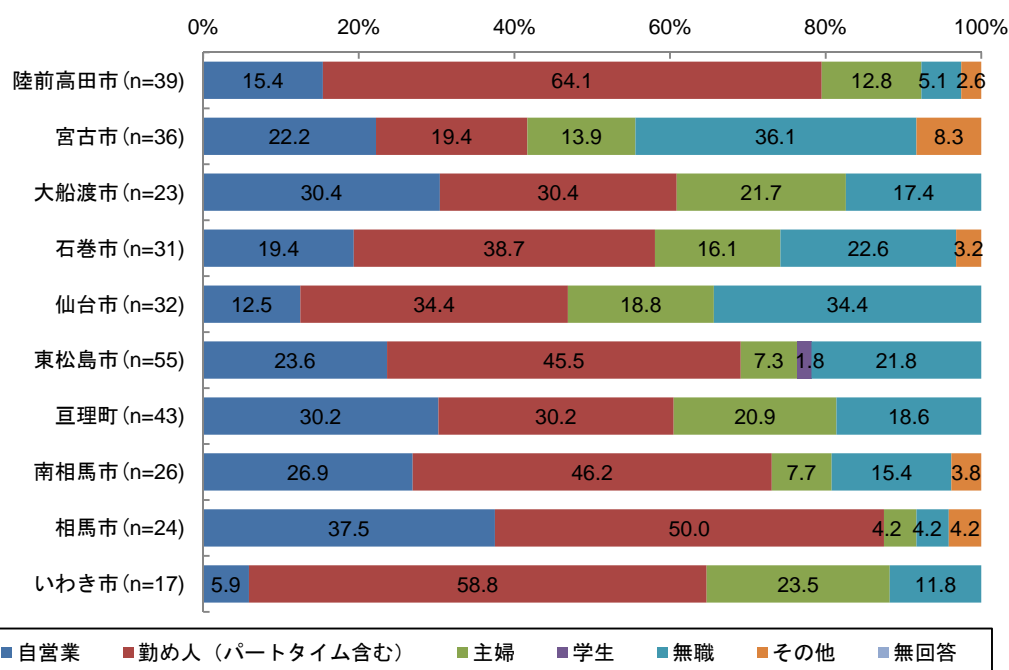
(被災前：職業)



被災前の職業は、「勤め人 (パートタイム含む)」が 134 名 (41.1%) と最も多く、「自営業」(74 名、22.7%) とあわせると 6 割を超える。

市町別にみると、宮古市及び仙台市では「無職」が占める割合が高い。

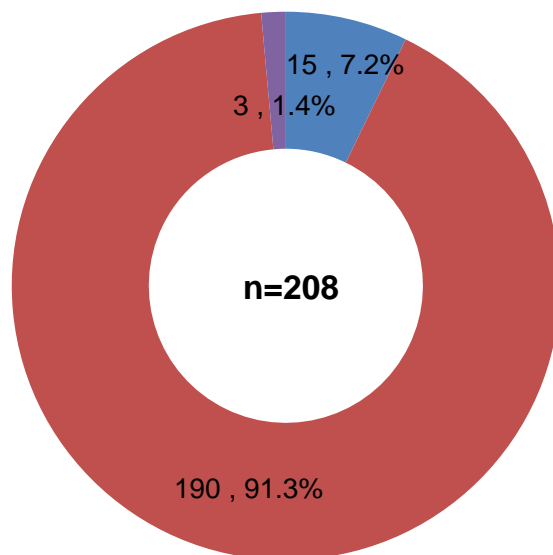
《属性別集計》



問7 被災前の職業（作業）で「アスベスト」または「石綿」を扱ったことがありますか。

【〇は1つ】

（被災前：アスベストの取り扱い有無）



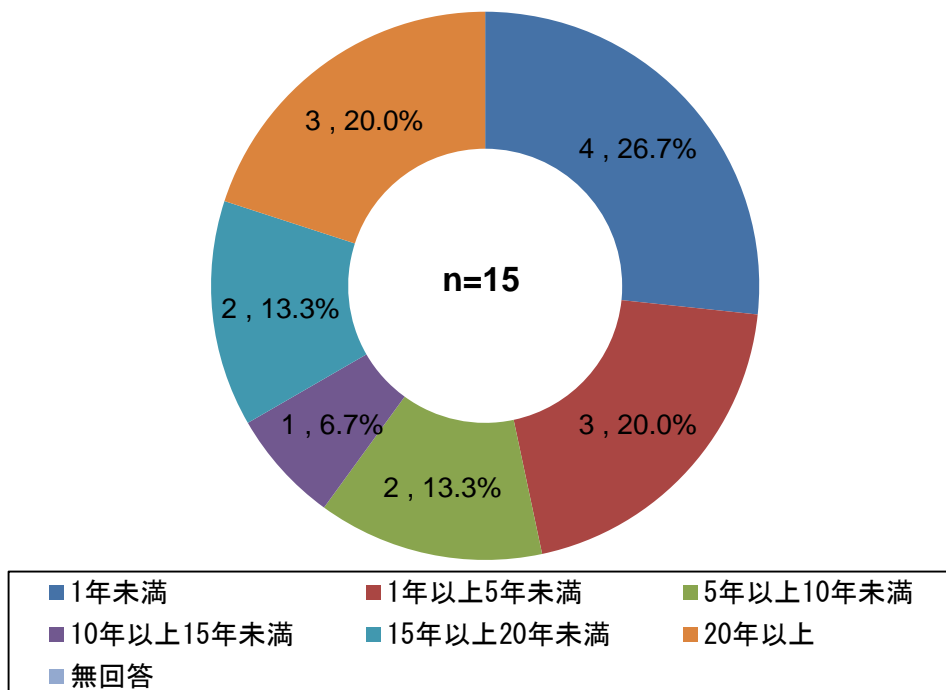
■あると思う ■ないと思う ■わからない ■無回答

被災前の職業が「自営業」もしくは「勤め人（パートタイム含む）」と答えた方に対し、「アスベスト」または「石綿」の取り扱い有無の認識を聞いたところ、回答者の認識として取り扱ったことが「あると思う」方は15名（7.2%）だった。

作業内容としては、「建設業」、「解体業」、「自動車工場内での吹き付け作業」等の回答がみられた。

問8 「アスベスト」または「石綿」を取り扱った職業（作業）に従事していた年数（合計）をご回答ください。【〇は1つ】

（被災前：アスベストの取り扱い年数）



回答者の認識として「アスベスト」または「石綿」を取り扱ったことが「あると思う」方に対し、取扱った職業(作業)に従事していた年数を聞いたところ、「1年未満」が4名(26.7%)と最も多かった。また、「20年以上」の方も3名確認された。

2.2.4 まとめ

被災前のばく露状況について、生活由来のばく露の可能性と職業由来のばく露の可能性に分けて整理した。

職業由来のばく露の可能性としては、回答者の認識として「アスベスト」または「石綿」を取り扱ったことが「あると思う」方が15名（7.2%）確認された。また、取扱った職業（作業）に従事していた年数については「1年未満」が最も多いが、「20年以上」の方も数名確認された。

また、生活由来のばく露の可能性を検討するため、「アスベスト」または「石綿」を使用している可能性があると思われる施設、建物として自宅及び自宅周辺の施設に分けて整理した。

自宅は大半が「木造」であり、石綿が大量に輸入使用されていた1990年頃までに建てられた建物（築20年以上）が占める割合は7割を超える。

また、自宅周辺の施設については「石綿ばく露把握のための手引き」（厚生労働省、平成17年度）石綿自記式簡易調査票に記載のある建物⁵を参考として、建物の有無を確認した。石綿自記式簡易調査票に記載のある施設が近くに無かった方は、86名（26.4%）であった。

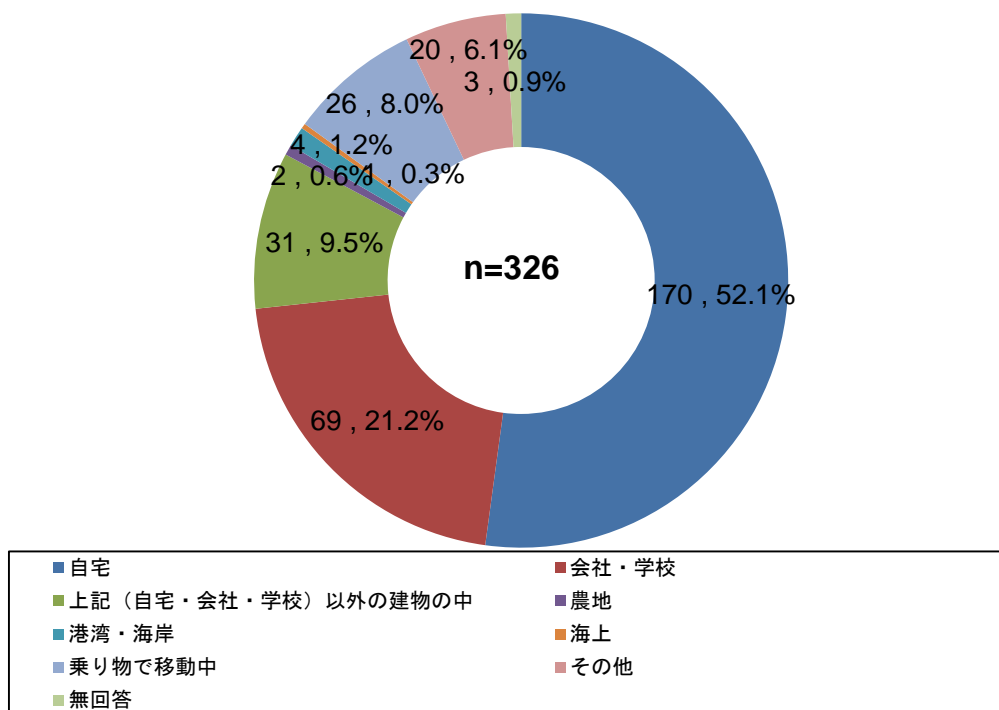
⁵ 本調査は、限られた期間、人員の中で実施したため、本調査項目に関しては施設の有無を確認したのみで、当該施設における石綿の取り扱い有無などは把握していない。

2.3 被災直後の石綿ばく露に関連する状況

2.3.1 地震発生時にいた場所

問9 地震発生時にどちらにいましたか。【〇は1つ】

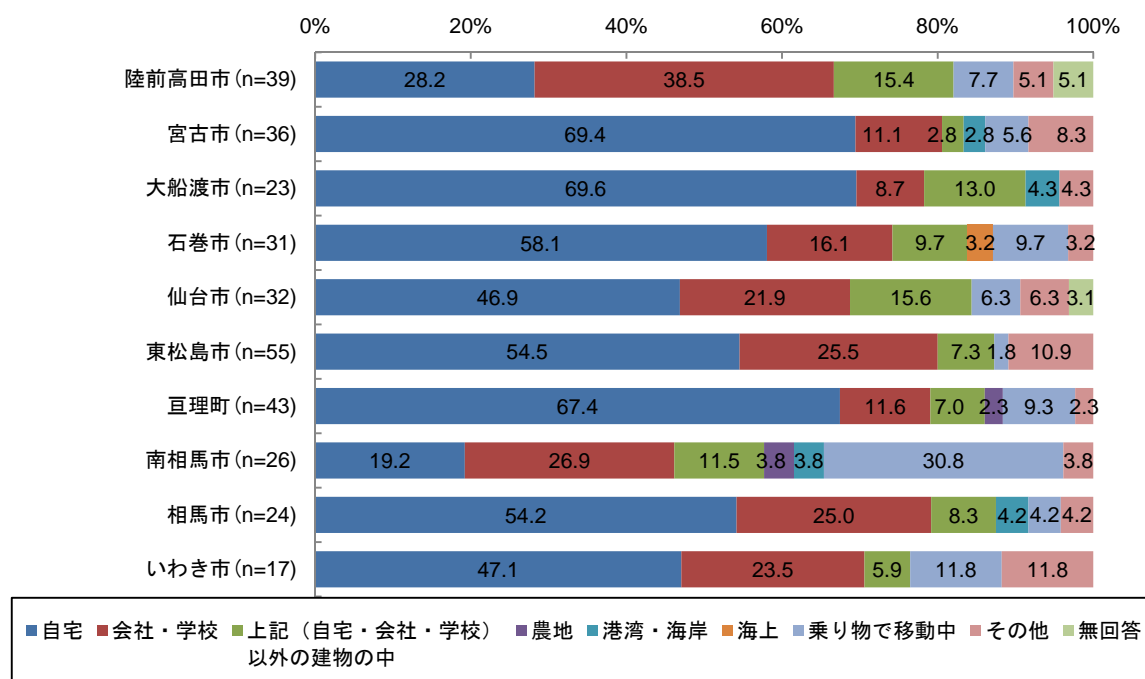
(地震発生時にいた場所)



地震発生時にいた場所としては「自宅」が最も多く、5割を超える。

市町別にみると、陸前高田市及び南相馬市では「自宅」以外が占める割合が高い。

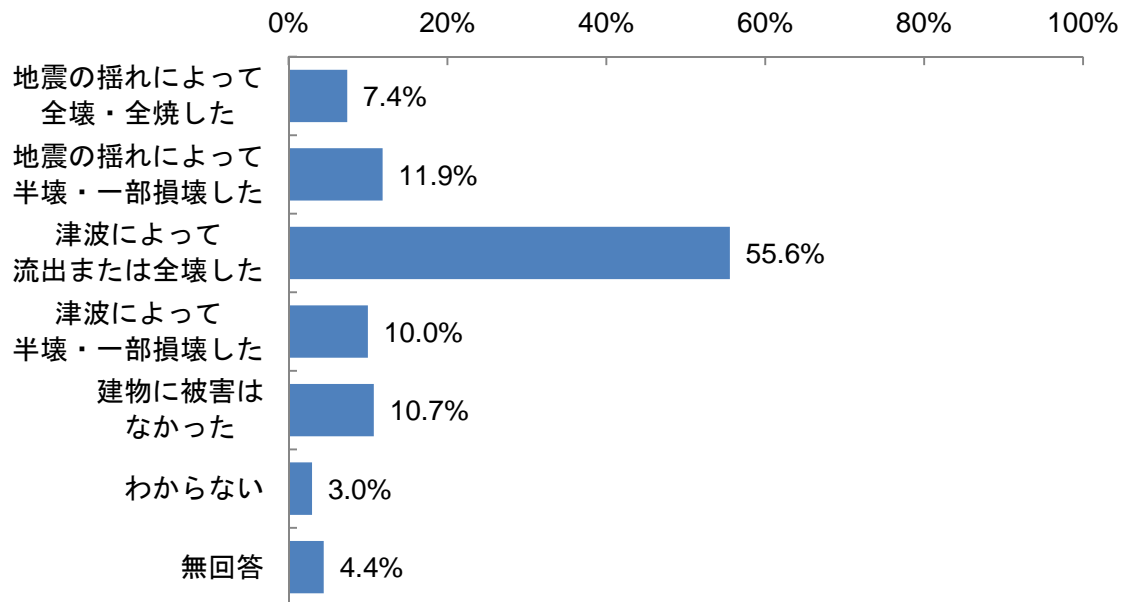
《属性別集計》



問10-3 上記の建物は、なにか被害がありましたか。最も近いものをご回答ください。【〇は該当するものいくつでも】

(建物の被害状況)

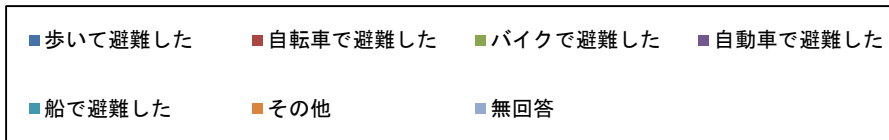
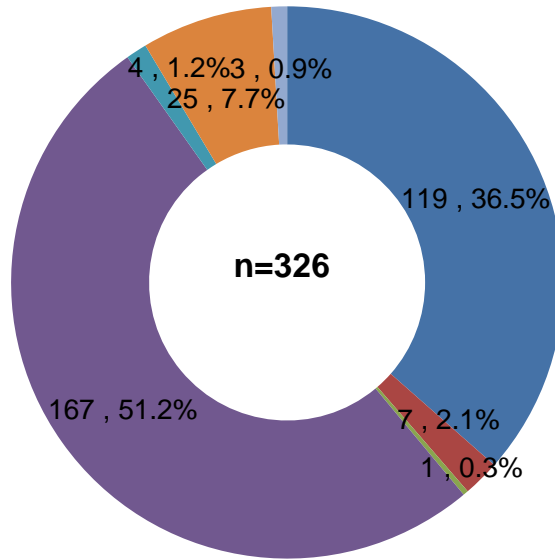
n=270



地震発生時にいた施設の被害状況としては、「建物に被害はなかった」のは29名(10.7%)で、地震もしくは津波により被害が発生している。特に、地震による被害(「地震の揺れによって全壊・全焼した」及び「地震の揺れによって半壊・一部損壊した」の合計、19.3%)よりも津波による被害(「津波によって流出または全壊した」及び「津波によって半壊・一部損壊した」の合計、65.6%)の割合が高い。

2.3.2 避難方法

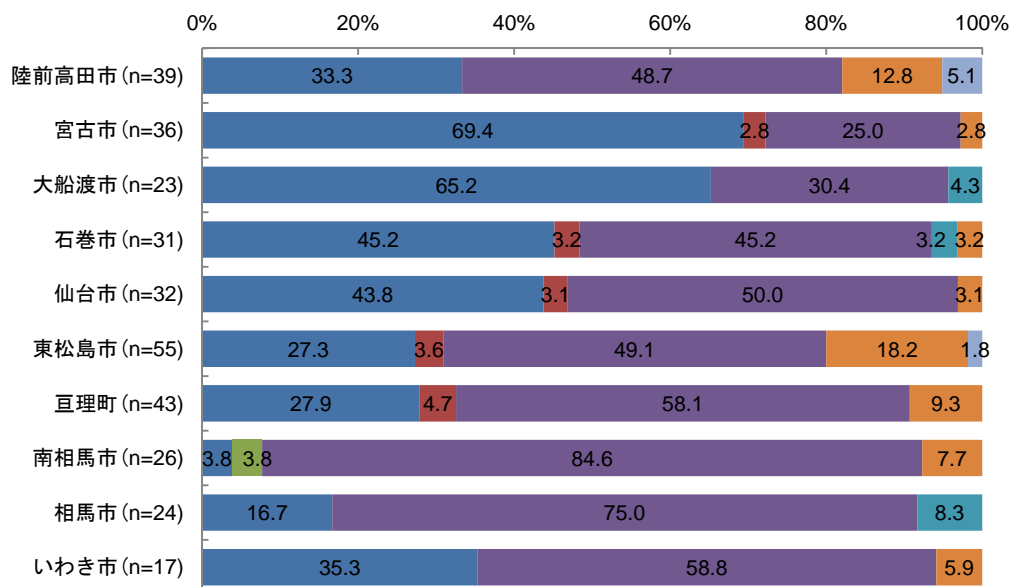
問 1 1 避難行動時の移動手段をご回答ください。【〇は1つ】
 (避難方法)



避難行動時の移動手段としては「自家用車で避難した」が 167 名（51.2%）と最も多く、次いで「歩いて避難した」（119 名、36.5%）、「その他」（25 名、7.7%）と続く。

市町別にみると、南相馬市及び相馬市では「自家用車で避難した」方が占める割合が高い。

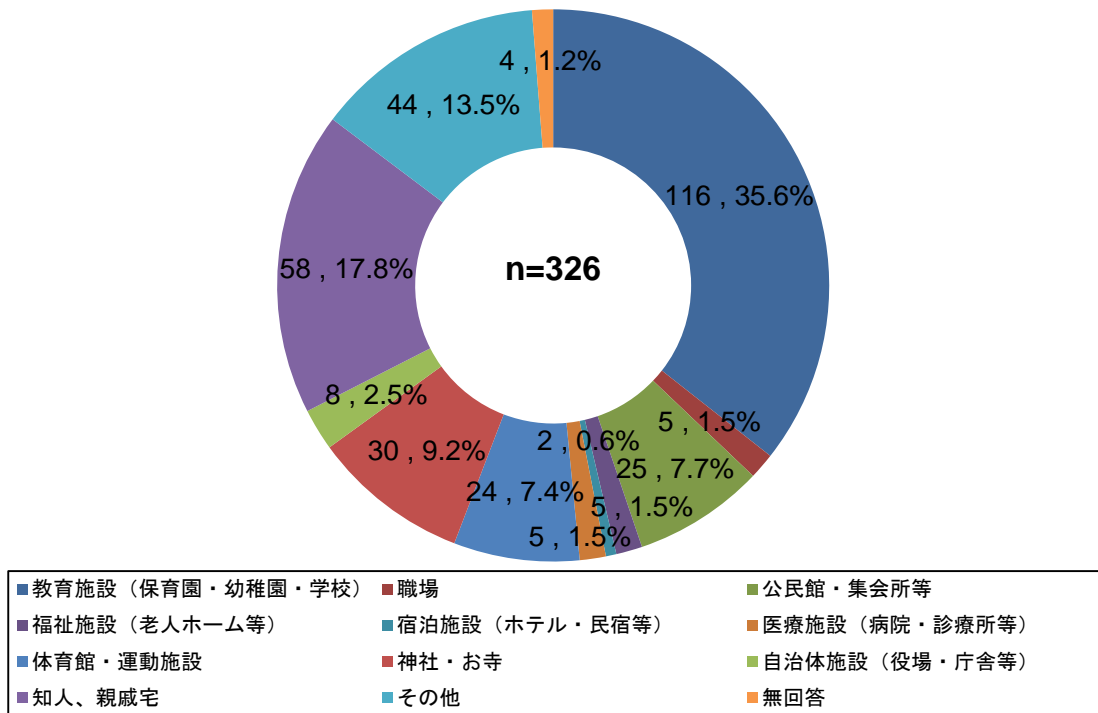
《属性別集計》



2.3.3 避難場所等

問12 避難先をご回答ください。【〇は1つ】

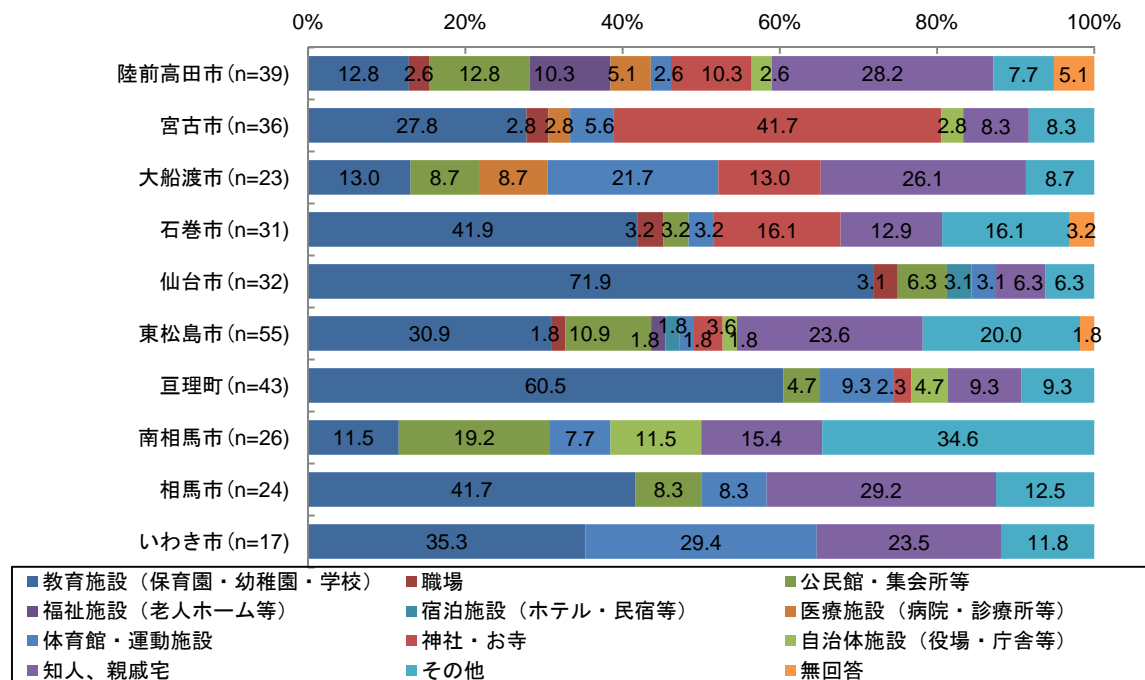
(避難場所)



全体としては「教育施設 (保育園・幼稚園・学校)」に避難した方が 116 名 (35.6%) と最も多い。

市町別にみると、陸前高田市及び大船渡市では「知人、親戚宅」が占める割合が最も高く、宮古市では「神社・お寺」が占める割合が最も高い。

《属性別集計》

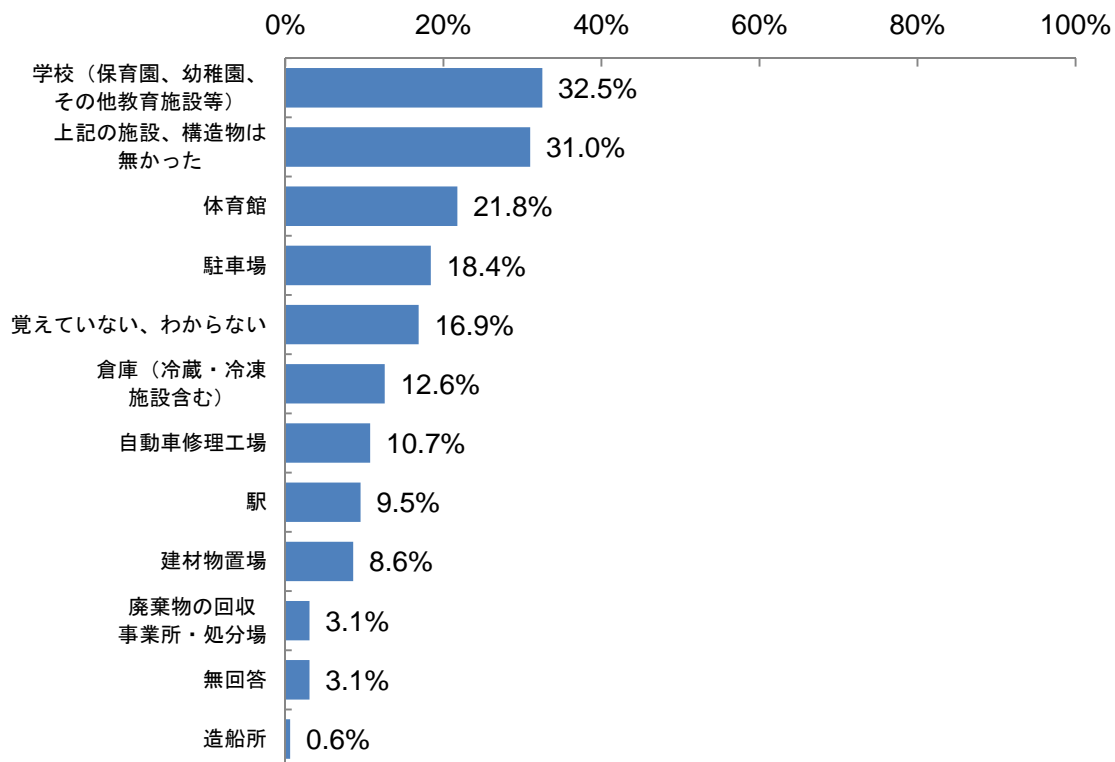


問 1 3 避難行動時に以下の施設、構造物の近くを通過もしくは、見た覚えがありますか。

【○は該当するものいくつでも】

(避難行動時:近くにあった、もしくは見た施設)

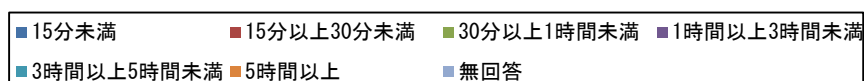
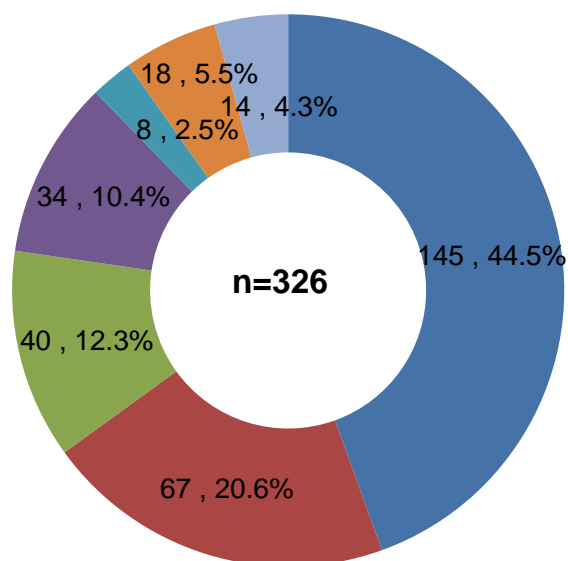
n=326



避難行動時に近くを通過もしくは見たと思われる施設については、「学校 (保育園、幼稚園、その他教育施設等)」が 106 名 (32.5%) と最も多い。一方、「上記の施設、構造物は無かった」と思われる方は 101 名 (31.0%) であった。

問14 避難行動を開始してから避難先に到着するまで、どれくらいの時間がかかりましたか。【〇は1つ】

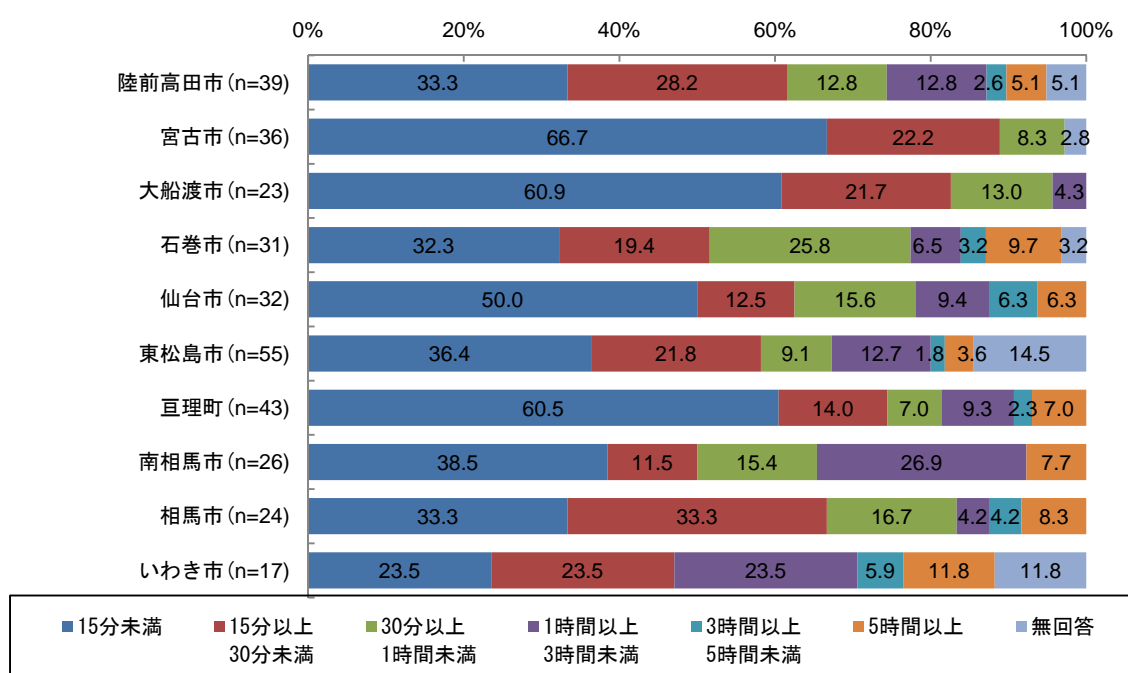
(避難に要した時間)



避難に要した時間は、「15分未満」が5割弱（145名）と最も多い。

市町別にみると、いわき市では1時間以上が占める割合が高い。

《属性別集計》



2.3.4 まとめ

被災直後の石綿ばく露に関連する状況を、被災直後に居た場所から避難が完了するまでの行動を確認する形で整理した。

地震発生時にいた場所は「自宅」が最も多く、被害状況は地震による被害よりも津波による被害の方が大きかった。

避難先は「教育施設（保育園・幼稚園・学校）」が最も多いが、市町によって回答の傾向が異なる。また、30分以内に避難した方は212名（65.0%）で、「自家用車で避難した」方が半数を超えた。

さらに、避難行動時に「石綿ばく露歴把握のための手引」（厚生労働省、平成17年度）石綿自記式簡易調査票に記載のある施設の近くを通過もしくは見た方は半数程度であった。

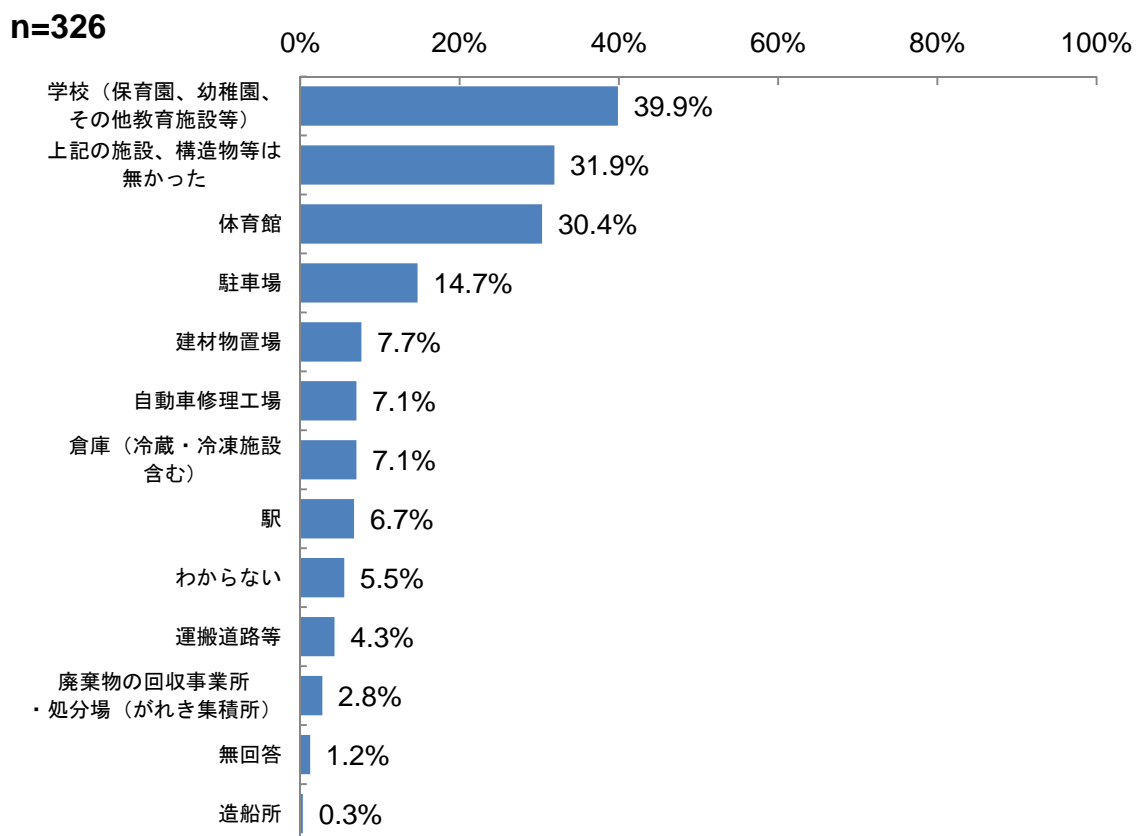
2.4 避難後の石綿ばく露に関連する状況

2.4.1 避難場所での過ごし方等

問15 避難生活場所（仮設住宅を除く）の近くに、以下の建物、構造物等がありましたか。

【○は該当するものいくつかでも】

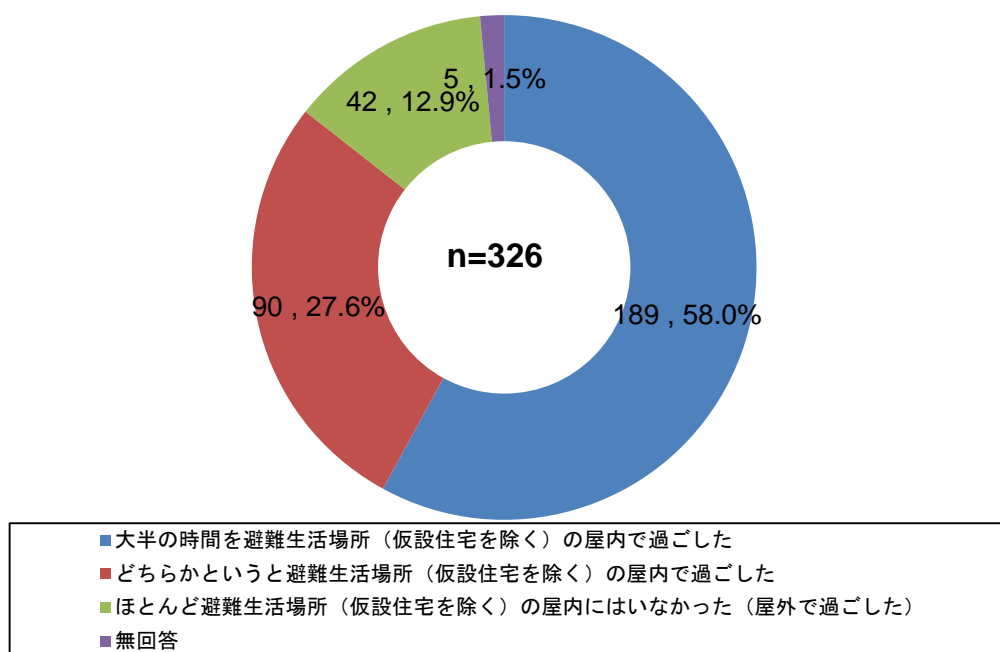
（被災後：避難生活場所周辺にあった施設）



被災後の避難生活場所（仮設住宅を除く）周辺にあった施設については、「学校（保育園、幼稚園、その他教育施設等）」があった方が130名（39.9%）と最も多い。なお、「廃棄物の回収事業所・処分場（がれき集積所）」及び「運搬道路等」が近くにあった方は、ともに5%以下であった。

問16 避難生活場所（仮設住宅を除く）での過ごし方について最もあてはまるものをご回答ください。【〇は1つ】

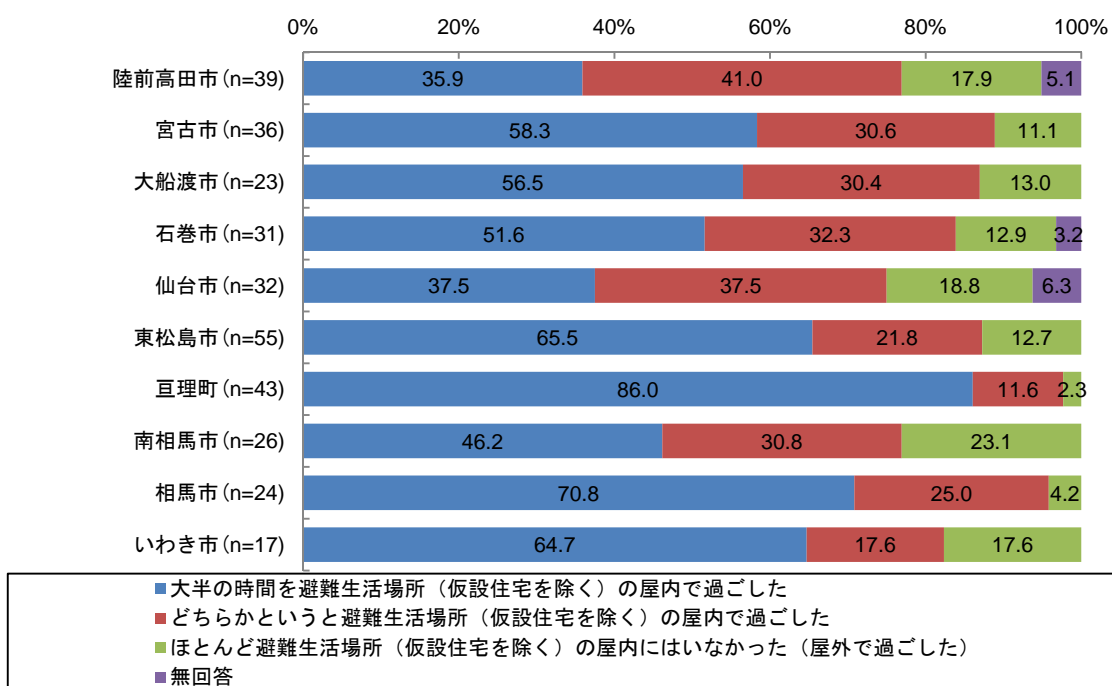
（避難生活場所での過ごし方）



避難生活場所（仮設住宅を除く）での過ごし方としては「大半の時間を避難生活場所（仮設住宅を除く）の屋内で過ごした」方が6割弱（189名）と最も多い。

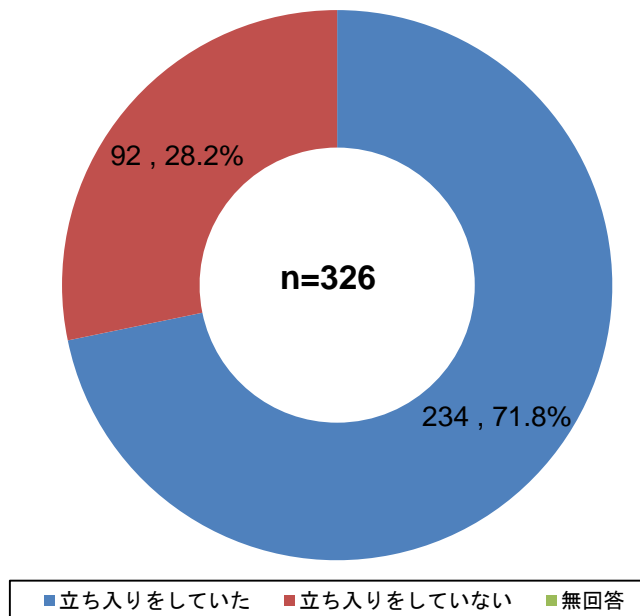
市町別にみると、陸前高田市、仙台市及び南相馬市では「大半の時間を避難生活場所（仮設住宅を除く）の屋内で過ごした」方以外が占める割合が高い。

《属性別集計》



2.4.2 建物が倒壊した地域への立ち入り状況

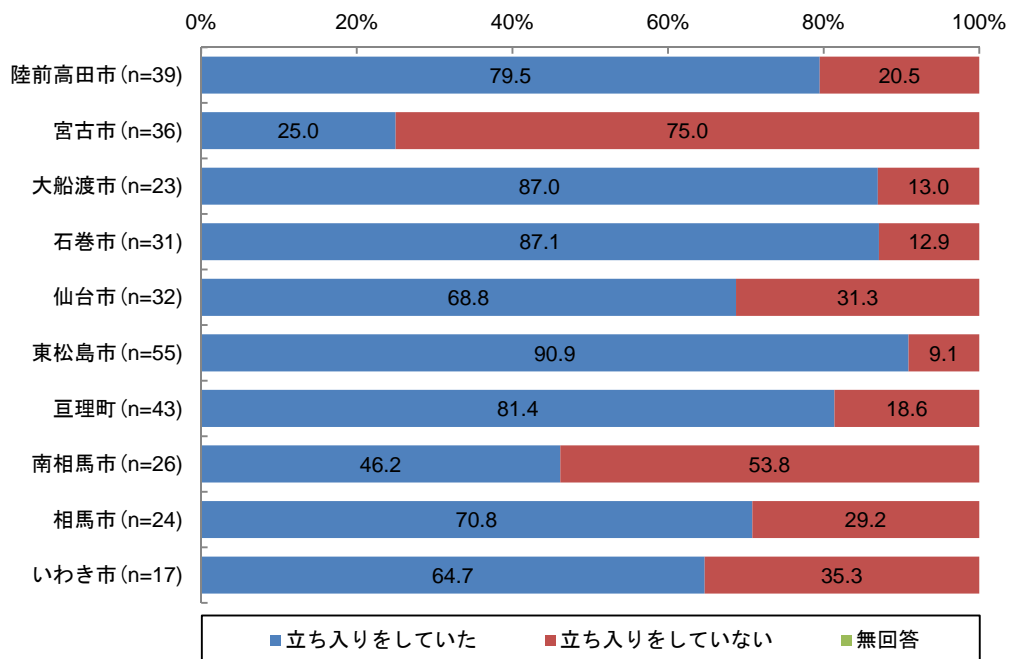
問17 自宅や職場などの建物が倒壊した地域へ立ち入りをしていましたか。【〇は1つ】
 (建物が倒壊した地域への立ち入り状況)



建物が倒壊した地域へ「立ち入りをしていました」方は7割以上(234名)であった。

市町別にみると、宮古市及び南相馬市では「立ち入りをしていました」が占める割合が低い。

《属性別集計》



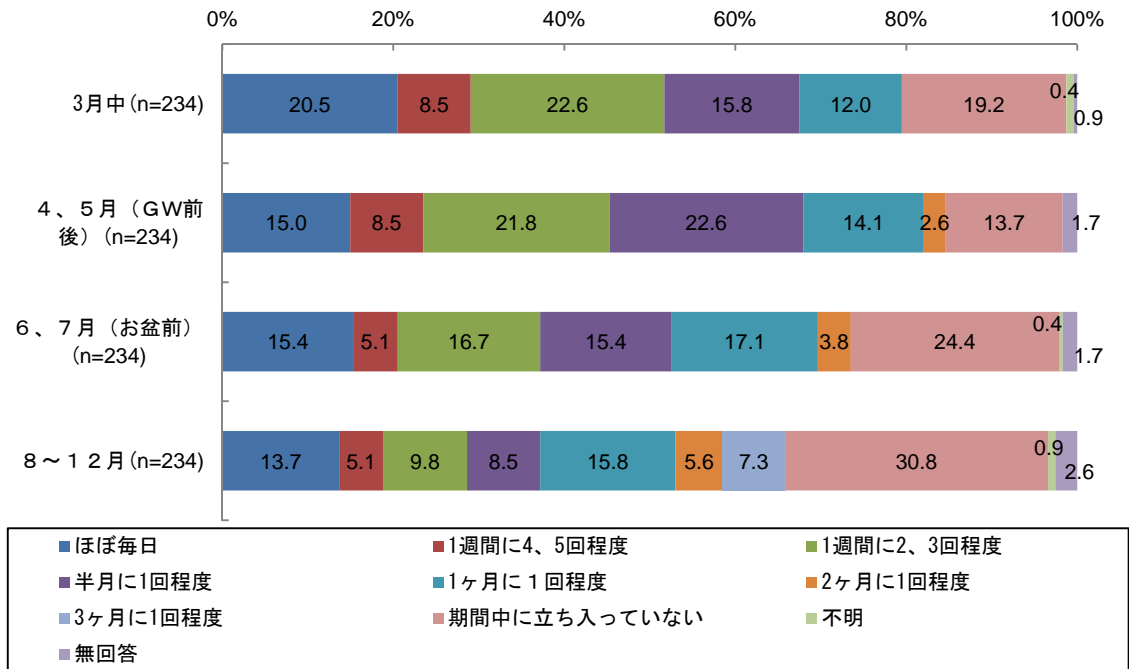
2.4.3 被災地域での作業状況

問 18 自宅や職場などの建物が倒壊した地域への立ち入りの状況について伺います。それぞれの項目について、あてはまるものを選んでください。

(1) 自宅や職場などの建物が倒壊した地域への立ち入り頻度をご回答ください。

【〇は1つ】

(立ち入り頻度)



3月中は「1週間に2、3回程度」立ち入った方が53名(22.6%)と最も多く、4、5月(GW前後)では「半月に1回程度」立ち入った方が最も多い(53名、22.6%)。6月以降は「期間中に立ち入っていない」方が最も多い。

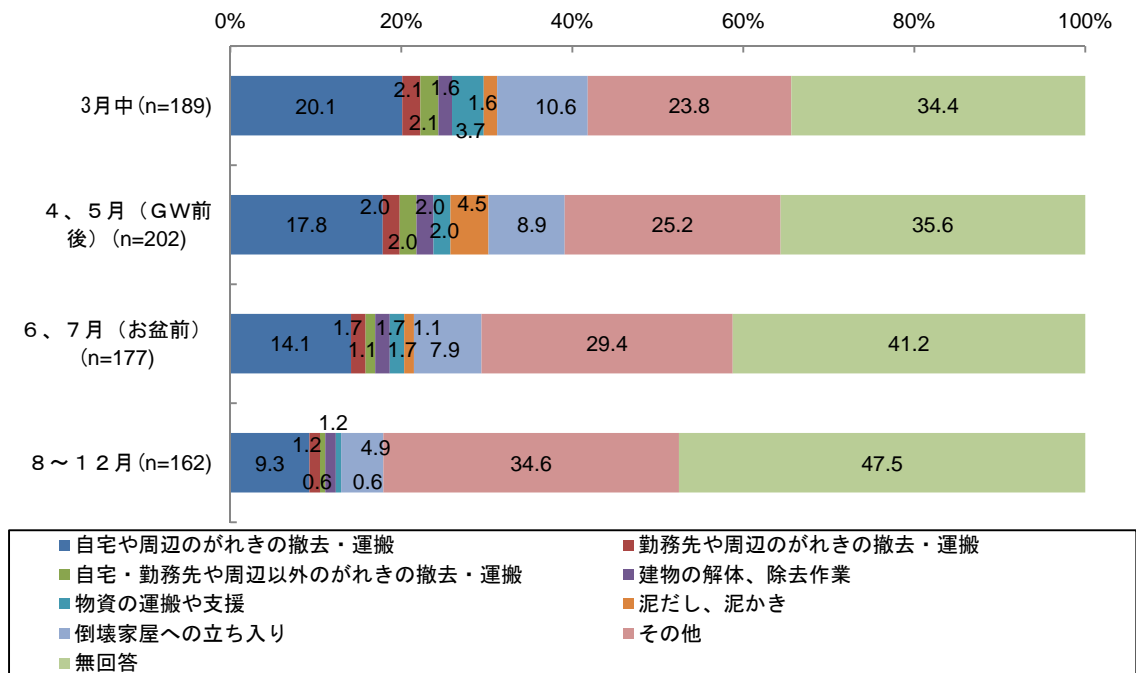
また、期間を問わず「ほぼ毎日」立ち入った方が15%前後いる。

問 18 自宅や職場などの建物が倒壊した地域への立ち入りの状況について伺います。それぞれの項目について、あてはまるものを選んでください。

(2) 自宅や職場などの建物が倒壊した地域で、実施された活動をご回答ください。

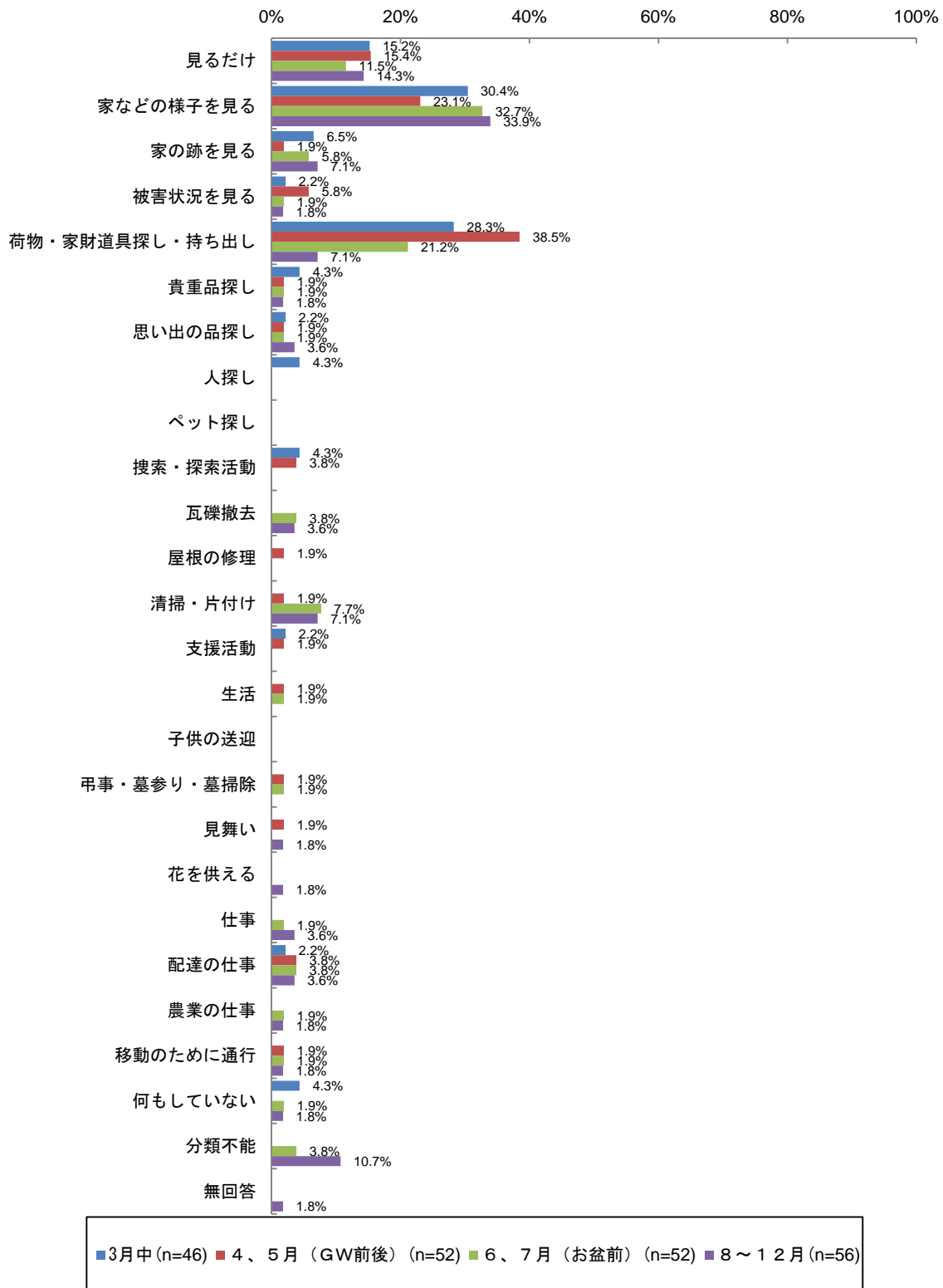
【実施した時間が最も長い項目 1 つに◎、その他実施した項目すべてに○】

(作業内容<最も従事>)



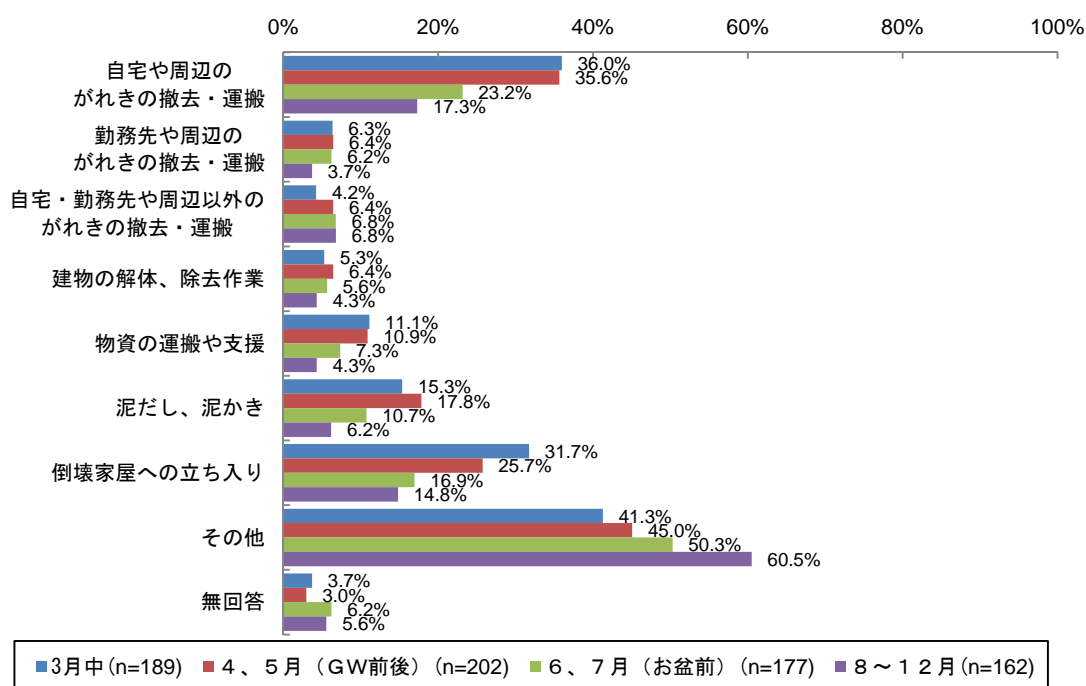
最も従事した項目は、無回答を除くと期間を問わず「その他」が最も多く、次いで「自宅や周辺のがれきの撤去・運搬」、「倒壊家屋への立ち入り」と続く。

(作業内容<最も従事:「その他」の内容>)



その他の内容としては、3月中、6、7月（お盆前）及び8～12月は「家などの様子を見る」が最も多い。一方、4、5月中（GW前後）は「荷物・家財道具探し・持ち出し」が最も多い。

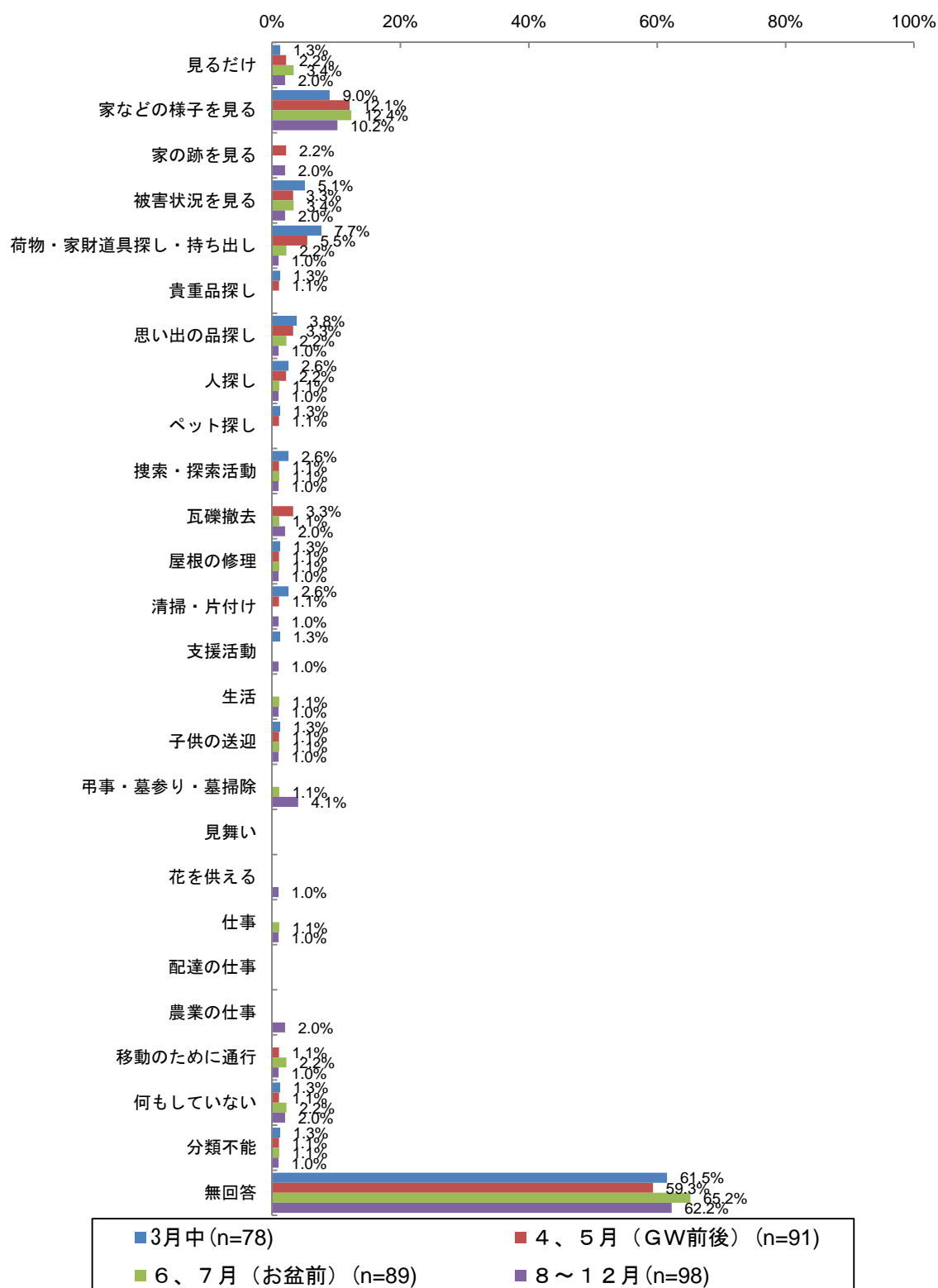
(作業内容<全て>)



実施した項目全てについては、作業内容は期間を問わず「その他」が最も多く、時間が経過していくにつれて、その割合も高くなっている。

一方、「自宅や周辺のがれきの撤去・運搬」や「倒壊家屋への立ち入り」は、3月中は3割を超えるが、時間が経過していくにつれて、その割合は低くなっていき、8月～12月には2割を下回る。

(作業内容<「その他」の内容>)

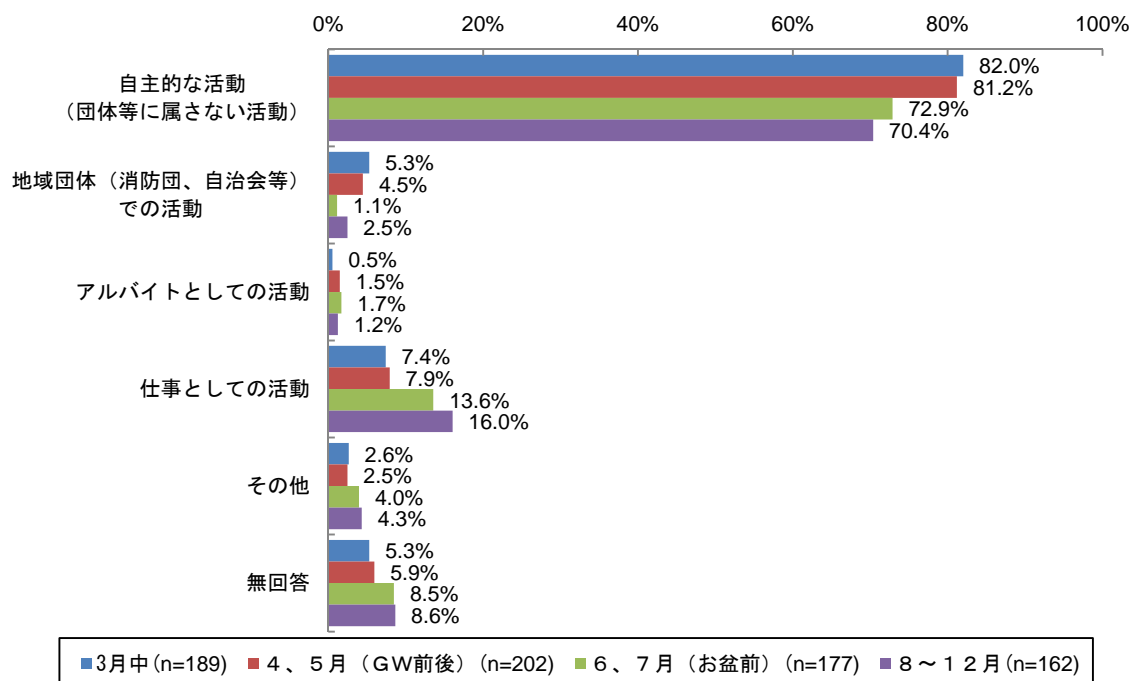


その他については、期間を問わず「家などの様子を見る」が最も多い。

問 1 8 自宅や職場などの建物が倒壊した地域への立ち入りの状況について伺います。それぞれの項目について、あてはまるものを選んでください。

(3)(2)の項目について、活動形態をご回答ください。【〇は該当するものいくつでも】

(活動形態)

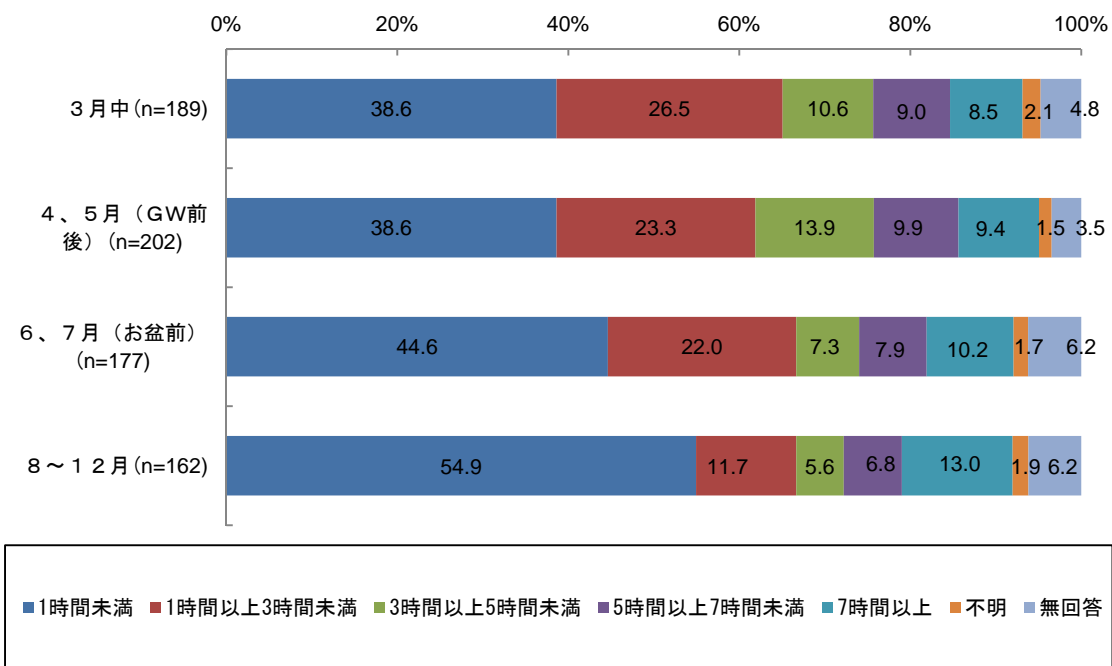


活動形態は期間を問わず「自主的な活動 (団体等に属さない活動)」が最も多い。時間が経過するにつれ「仕事としての活動」が増え、6月以降は1割を超える。

問18 自宅や職場などの建物が倒壊した地域への立ち入りの状況について伺います。それぞれの項目について、あてはまるものを選んでください。

(4) 1回あたりの平均活動時間をご回答ください。【〇は1つ】

(従事時間)



従事時間は期間を問わず「1時間未満」が最も多く、時間の経過とともにその割合は高くなる。

2.4.4 まとめ

避難生活場所（仮設住宅を除く）での過ごし方を伺ったところ、「大半の時間を避難生活場所（仮設住宅を除く）の屋内で過ごした」方が189名（58.0%）と最も多かった。

また、避難生活場所周辺には、「石綿ばく露歴把握のための手引」（厚生労働省、平成17年度）石綿自記式簡易調査票に記載のある施設のうち「学校（保育園、幼稚園、その他教育施設等）」があったと思われる方が130名（39.9%）と最も多いが、「廃棄物の回収事業所・処分場（がれき集積所）」及び「運搬道路等」が近くにあったと回答した方は、ともに5%以下であった。

建物が倒壊した地域へ「立ち入りをしていた」方は7割以上で、3月中は「1週間に2、3回程度」立ち入りをしていた方が最も多く、4、5月（GW前後）では「半月に1回程度」立ち入りをしていた方が最も多い。6月以降は「期間中に立ち入っていない」方が最も多い。

立ち入りの主目的は、期間を問わず「その他」が最も多く、次いで「自宅や周辺のがれきの撤去・運搬」、「倒壊家屋への立ち入り」と続く。「その他」の詳細は、3月中、6、7月（お盆前）及び8～12月は「家などの様子を見る」が最も多い。一方、4、5月中（GW前後）は「荷物・家財道具探し・持ち出し」が最も多い。

また、立ち入りした際に実施した項目は「その他」が最も多く、次いで「自宅や周辺のがれきの撤去・運搬」、「倒壊家屋への立ち入り」と続く。「その他」の詳細は「家などの様子を見る」が最も多いが、内容は多岐にわたる。

さらに、活動形態は期間を問わず「自主的な活動（団体等に属さない活動）」が最も多く、従事時間も「1時間未満」が最も多い。

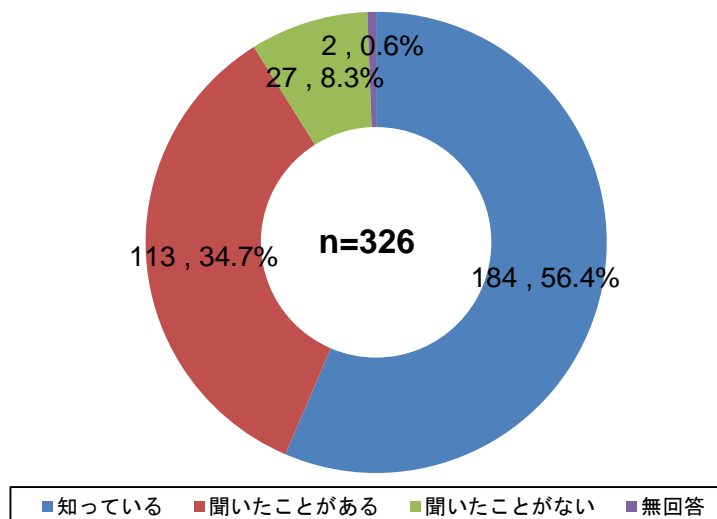
2.5 石綿（アスベスト）に関する意識

2.5.1 被災前の石綿（アスベスト）に関する情報入手状況

問19 「アスベスト」または「石綿」のことを聞いたり、読んだりして知っていますか。

【〇は1つ】

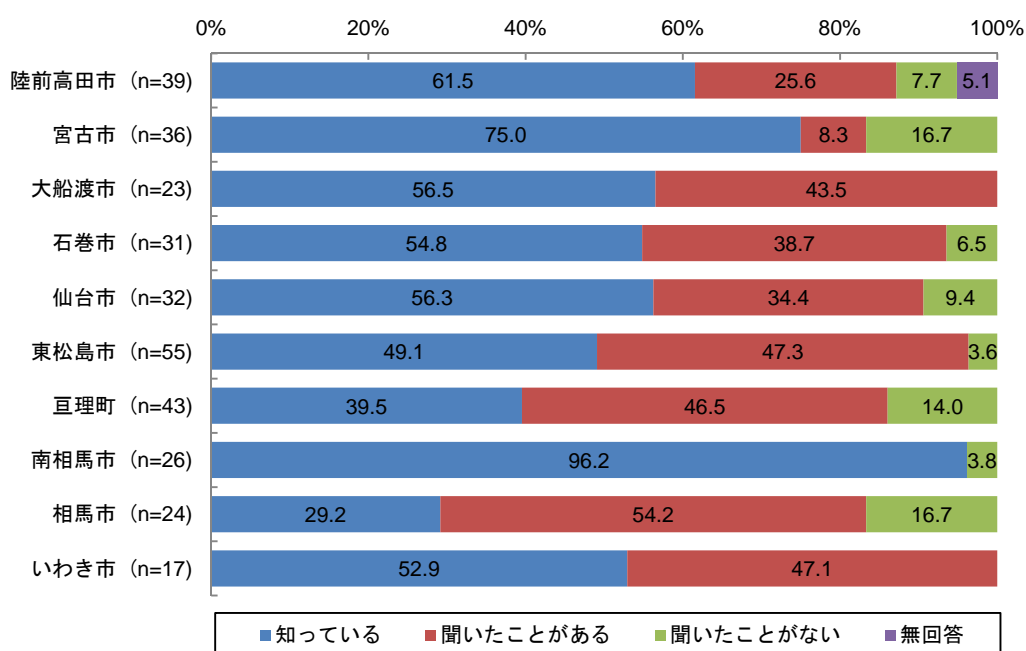
（石綿（アスベスト）の認識度）



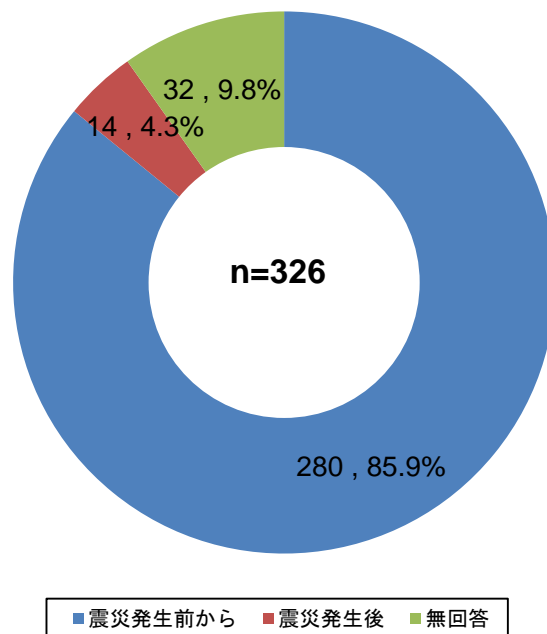
全体としては9割以上が「アスベスト」または「石綿」のことを聞いたり、読んだりして「知っている」もしくは「聞いたことがある」と回答している。

市町別にみると、南相馬市では「知っている」が占める割合が高い。

《属性別集計》

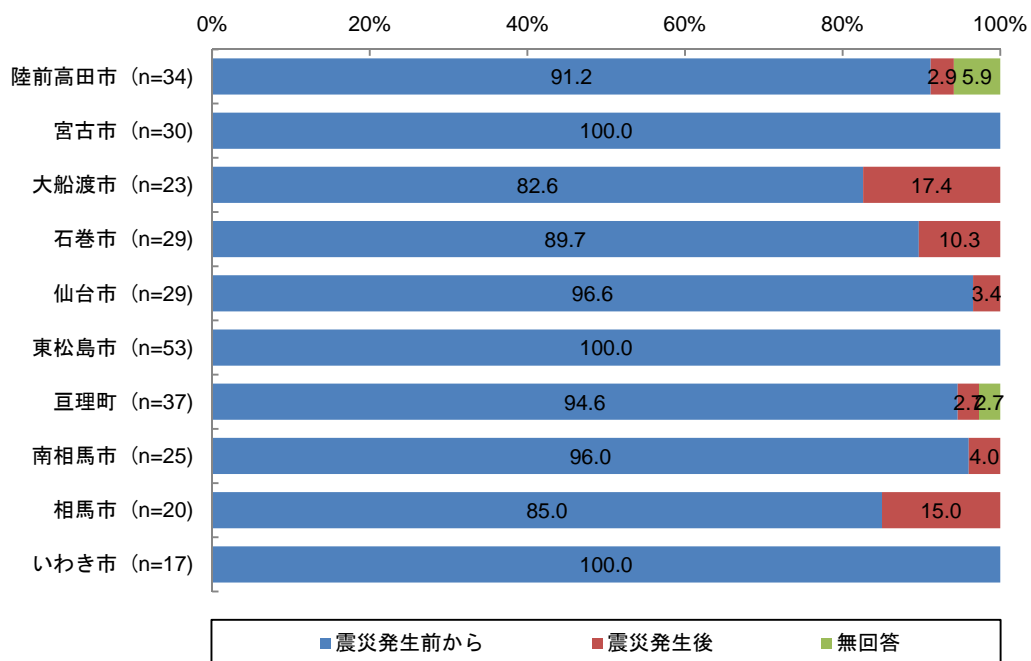


問20 「アスベスト」または「石綿」のことを知ったのはいつ頃ですか。【〇は1つ】
 (認識した時期)

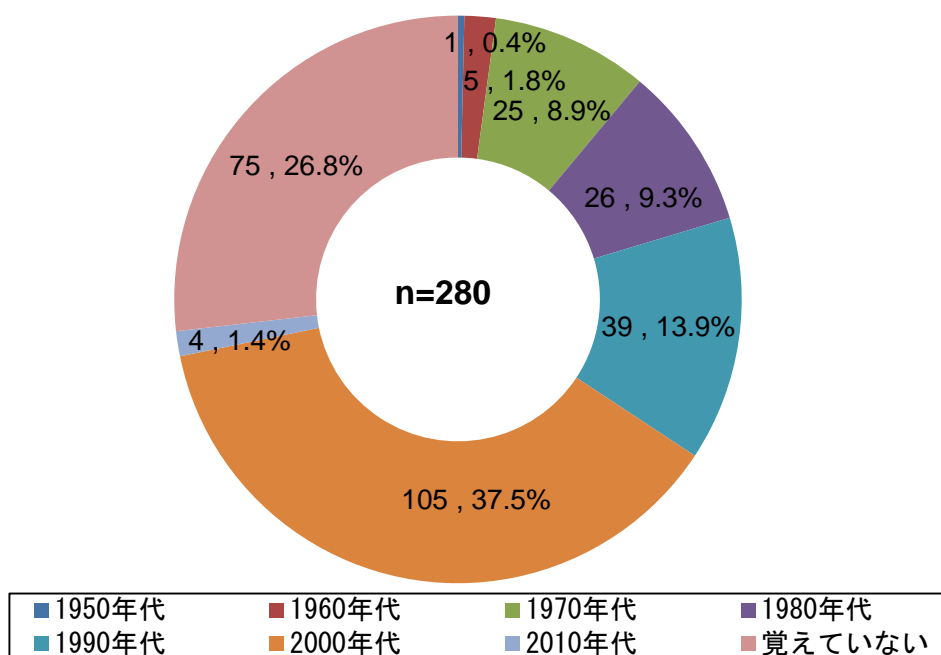


「アスベスト」または「石綿」のことを「震災発生前から」知っていた方が9割を超えた。

《属性別集計》



(認識した時期：西暦換算)



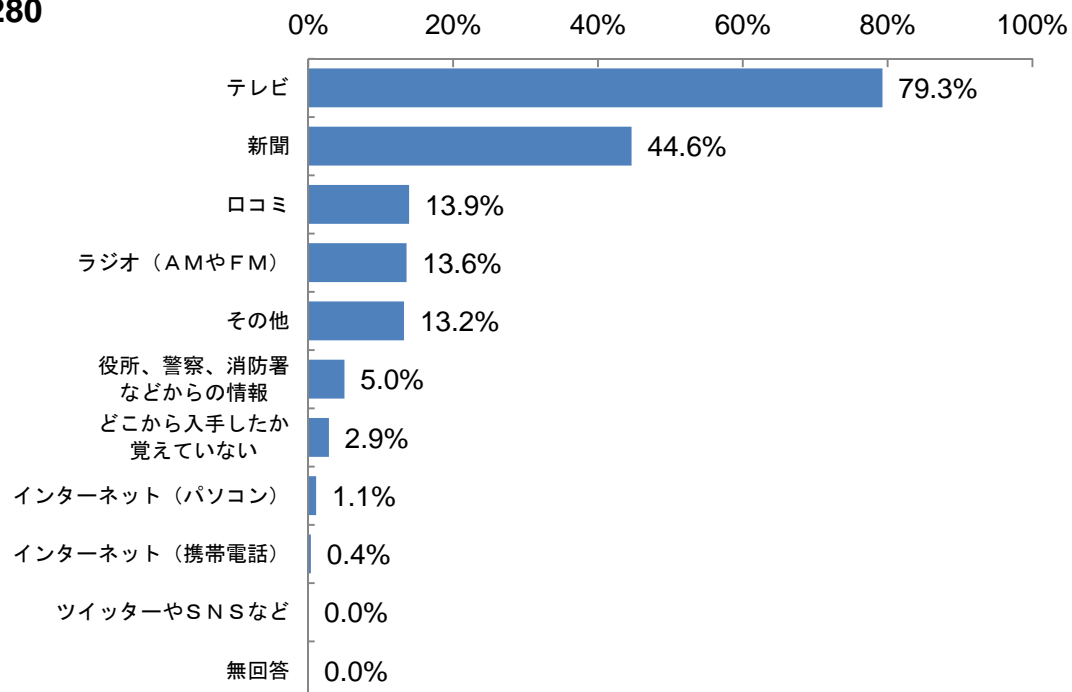
石綿（アスベスト）を知ったのは2000年代が105名（37.5%）と最も多く、次いで「覚えていない」（75名、26.8%）、「1990年代」（39名、13.9%）と続く。

問2 1 「アスベスト」または「石綿」に関する情報を入手した先はどちらでしたか。

【〇は該当するものいくつでも】

(情報の入手元)

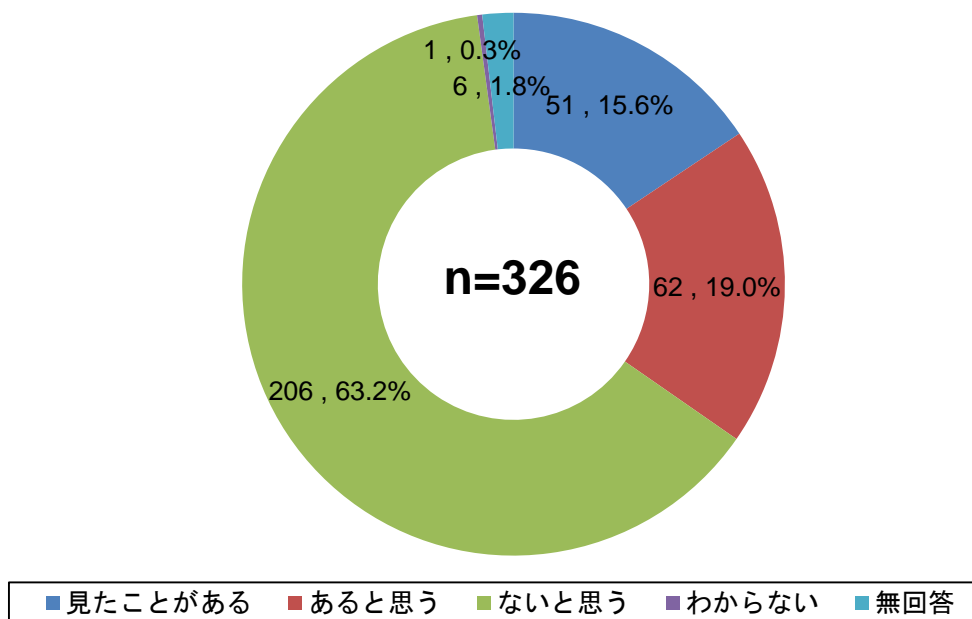
n=280



「アスベスト」または「石綿」に関する情報の入手先としては「テレビ」が 222 名 (79.3%) と最も多く、次いで「新聞」(125 名、44.6%)、「口コミ」(39 名、13.9%) と続く。

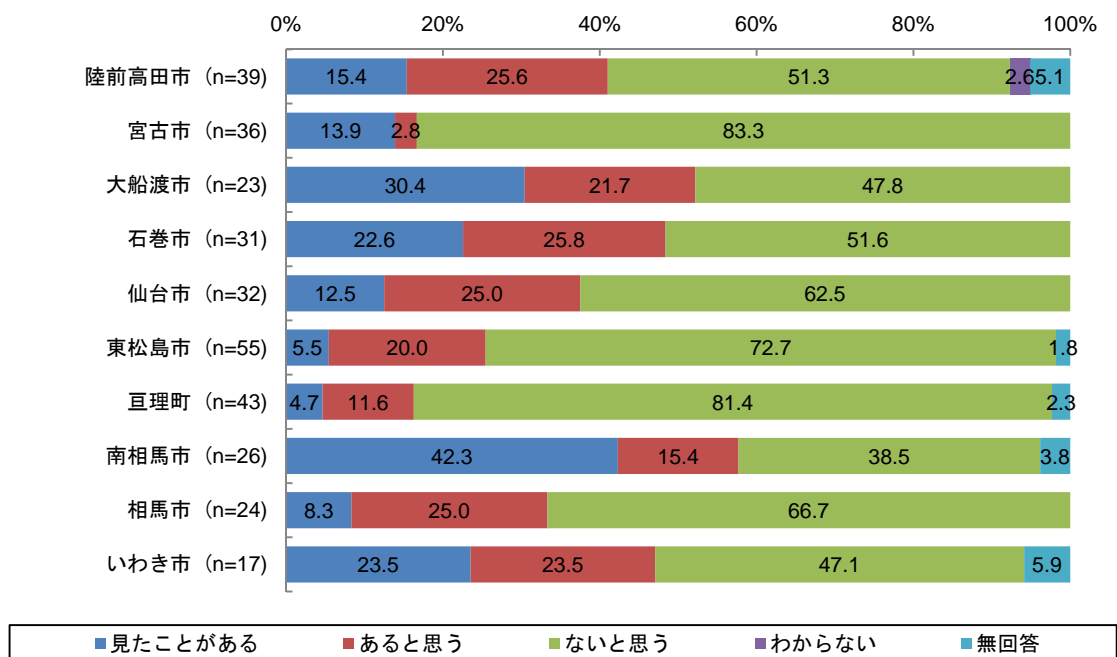
2.5.2 アスベストに関する意識

問22 あなたの身の回りに「アスベスト」または「石綿」があるでしょうか。【〇は1つ】
 (身の回りのアスベストの有無)



身の回りにアスベストがあるのを「見たことがある」もしくは「あると思う」との認識をもっている方は113名(34.7%)であった。

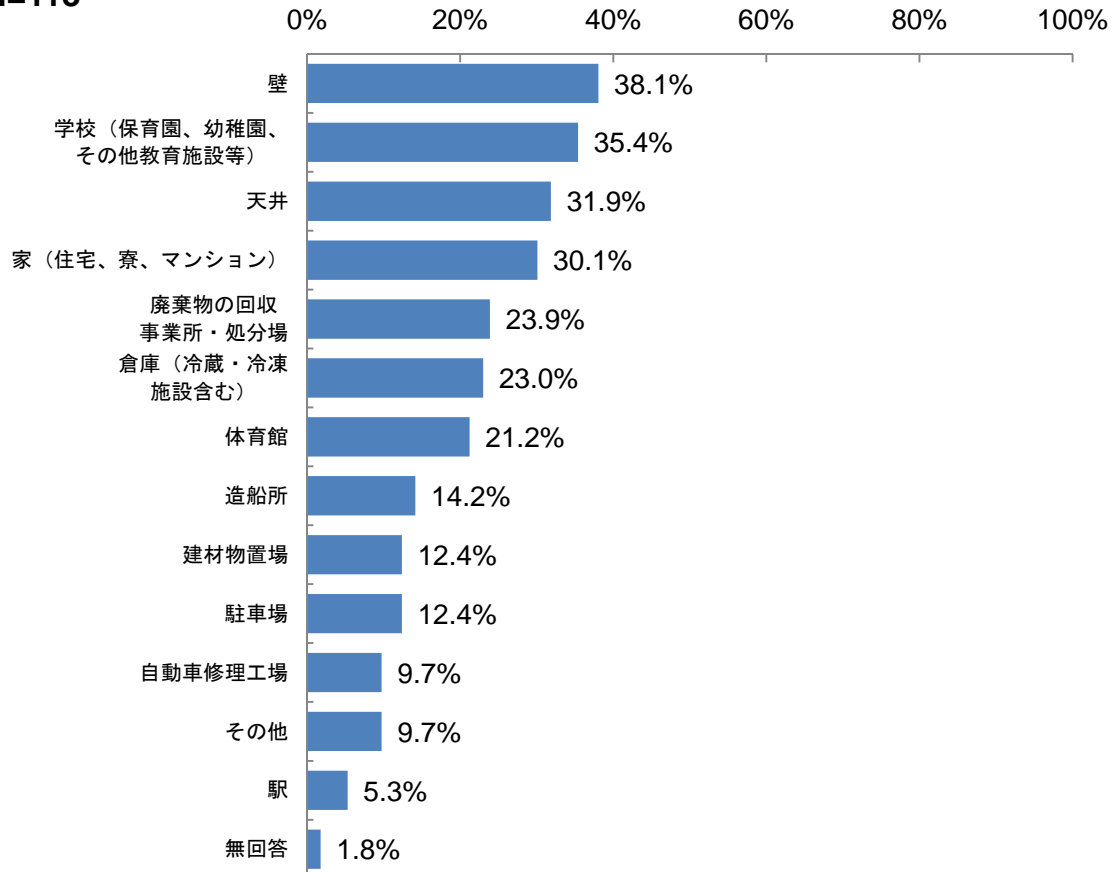
《属性別集計》



問 2 3 「アスベスト」または「石綿」があると思う場所や使われていると思う物が以下にありますか。【〇は該当するものいくつかでも】

(アスベストがあると思う場所や使われていると思うもの)

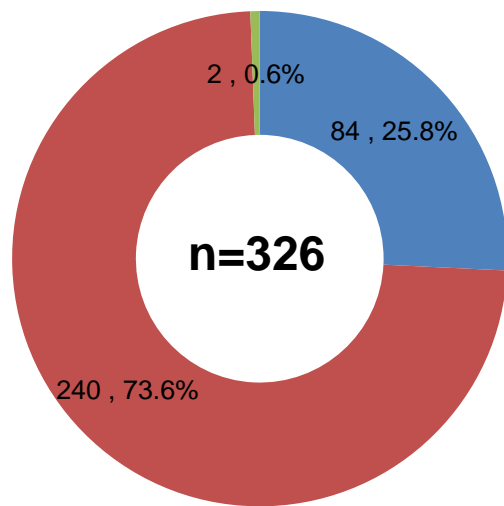
n=113



身の回りにアスベストがあるのを「見たことがある」もしくは「あると思う」との認識をもっている方に対して、あると思う場所や使われていると思うものを聞いたところ、「壁」に使われていると思う方が 43 名 (38.1%) と最も多く、次いで「学校 (保育園、幼稚園、その他教育施設等)」(40 名、35.4%)、「天井」(36 名、31.9%) と続く。

2.5.3 被災後のアスベスト対策に関する情報入手状況

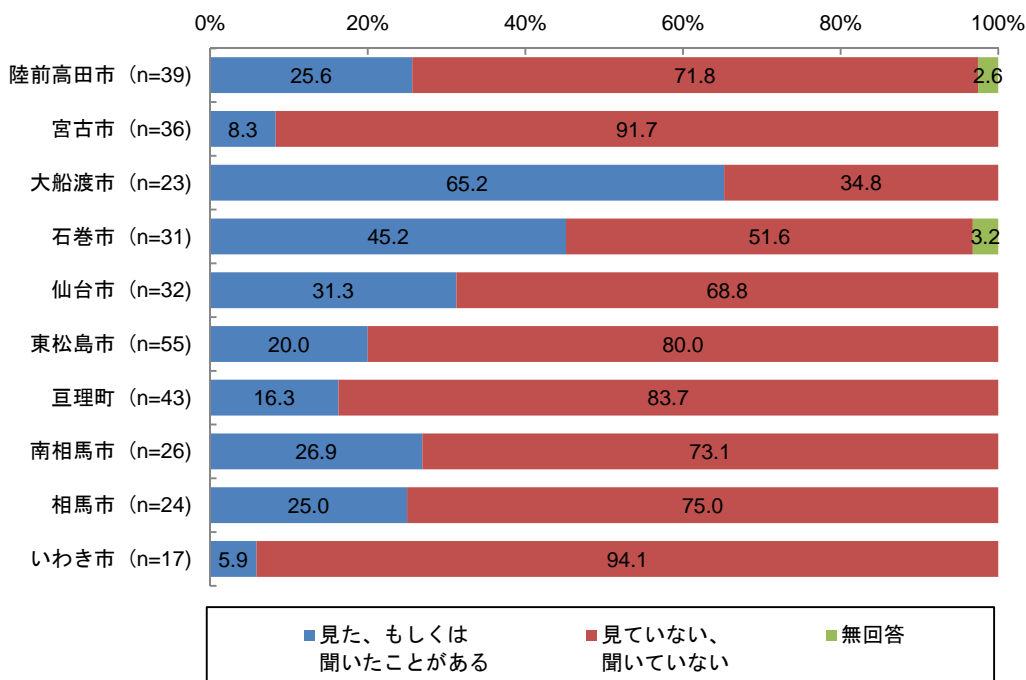
問2 4 震災後にアスベスト対策に関する情報を見た、聞いたことがありますか。【〇は1つ】
 (被災後のアスベスト対策に関する情報入手有無)



■ 見た、もしくは聞いたことがある ■ 見ていない、聞いていない ■ 無回答

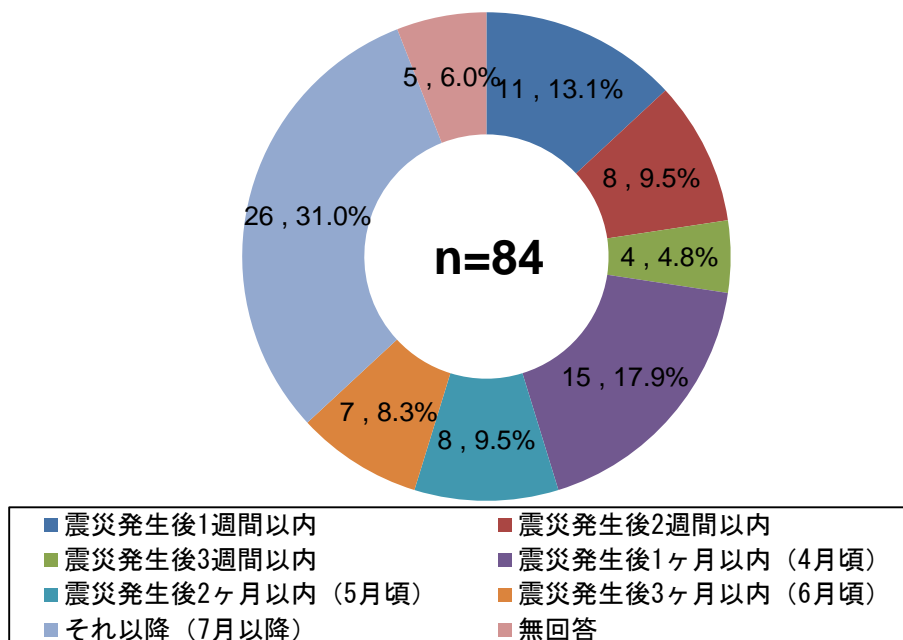
被災後にアスベスト対策について「見ていない、聞いていない」が7割以上を占め、「見た、もしくは聞いたことがある」方は84名（3割弱）であった。

《属性別集計》



問 2 5-1 震災発生後にアスベスト対策に関する情報を初めて見た、聞いたのはいつ
ですか。【〇はひとつ】

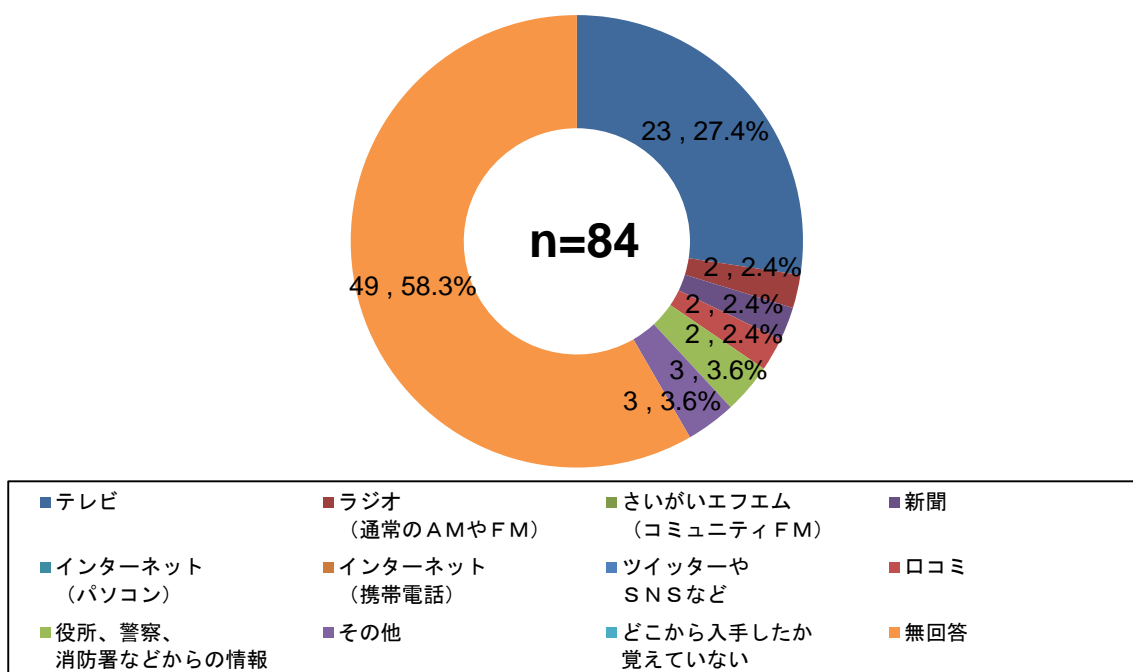
(情報の入手時期)



被災後にアスベスト対策について「見た、もしくは聞いたことがある」方の情報の入手時期は、7月以降に入手した方が26名(31.0%)と最も多く、震災発生から1ヶ月以内に入手した方は半数弱であった。

問25-2 震災発生後にアスベスト対策に関する情報を入手した先はどちらでしたか。【初めに入手した先ひとつに◎、その後に入手した先で該当するものすべてに○】

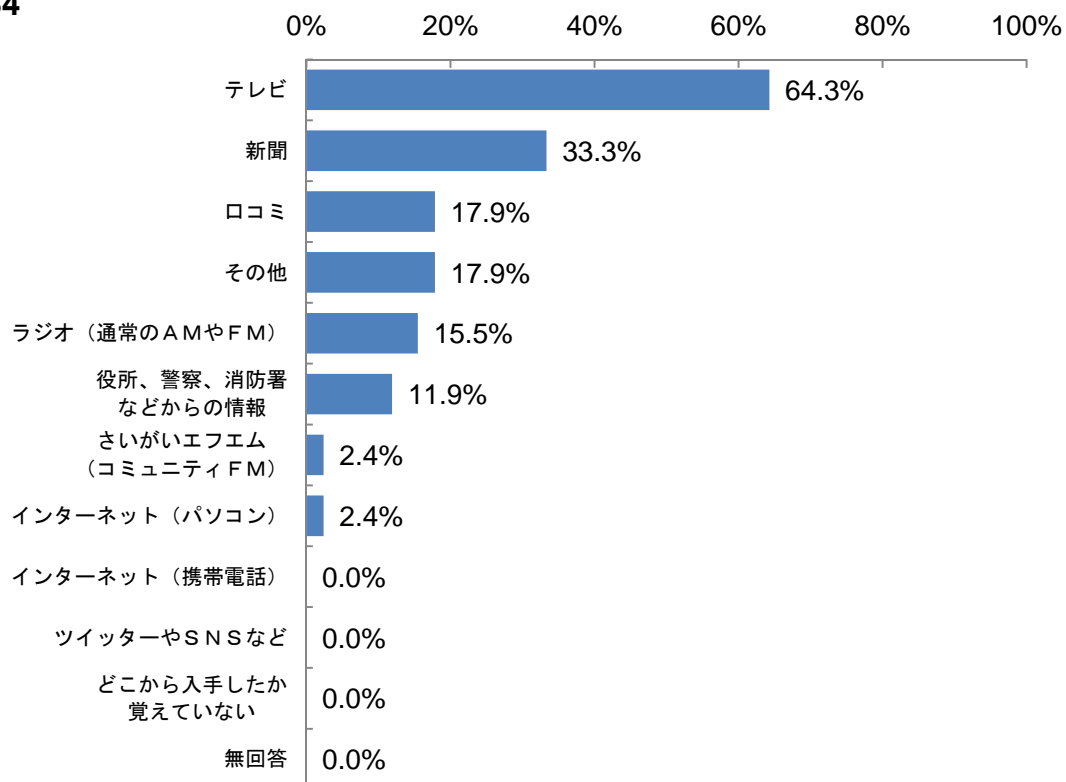
(情報の入手元：初めての入手先)



初めての情報の入手先は無回答を除くと「テレビ」が23名(27.4%)と最も多く、次いで「役所、警察、消防署などからの情報」(3.6%)、「その他」(3.6%)と続く。

(情報の入手先：その後に入手したものすべて)

n=84

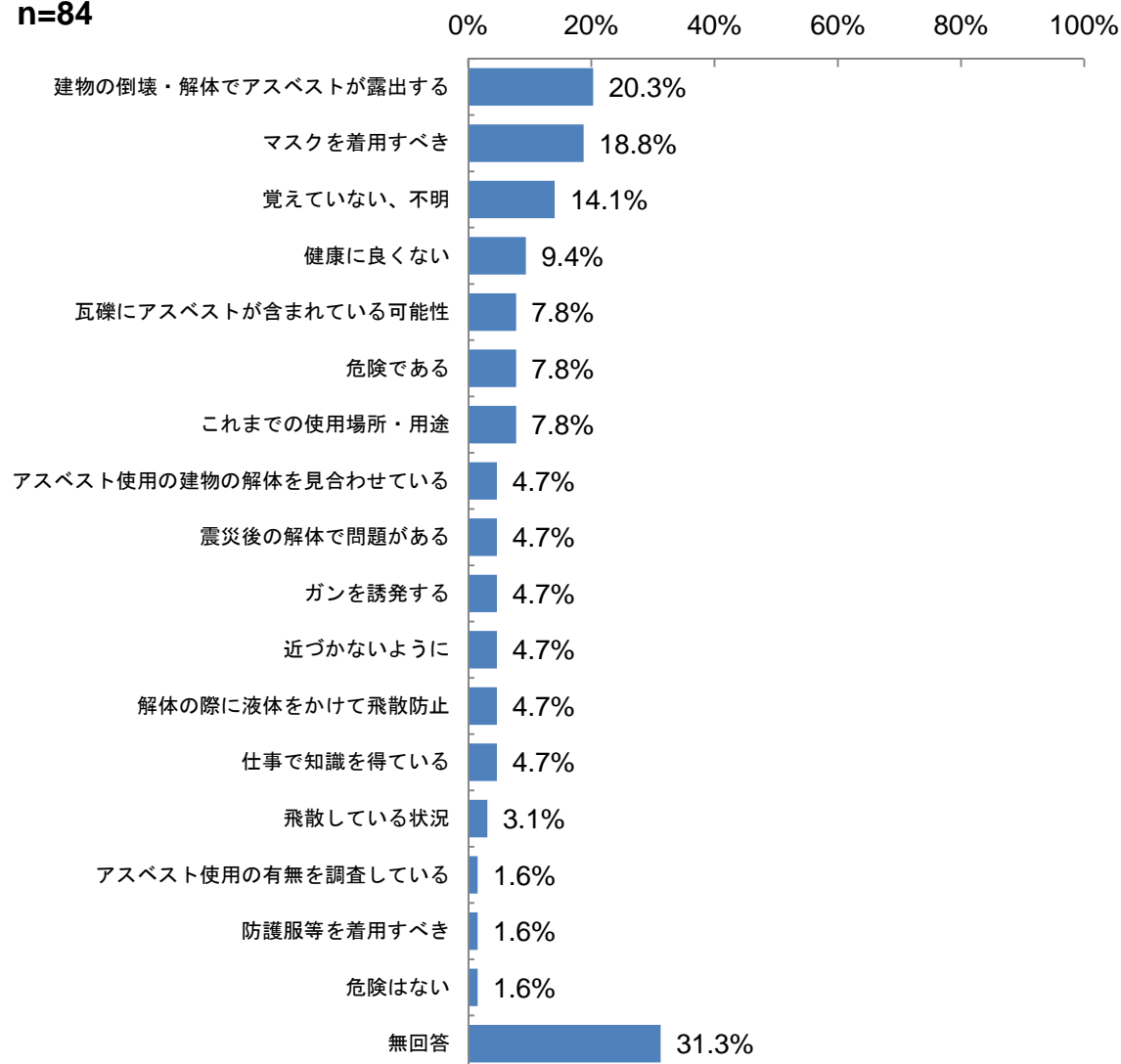


その後に入手した先としては、「テレビ」が54名(64.3%)と最も多く、次いで「新聞」(28名、33.3%)、「口コミ」(15名、17.9%)、「その他」(15名、17.9%)と続く。

問25-3 それはどのような内容でしたか。【自由記述】

(入手した情報の内容)

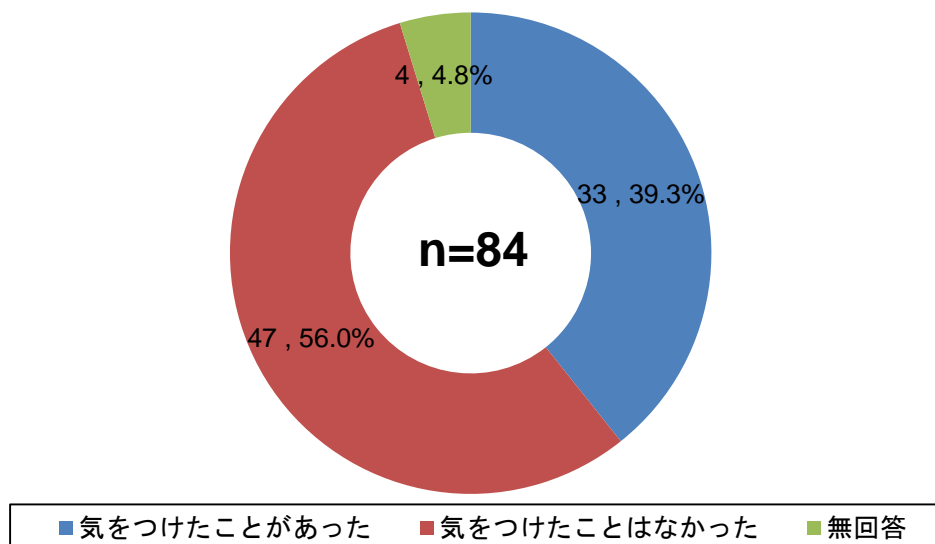
n=84



入手した情報の内容としては、アスベストの処理に関するものや、アスベストの危険性に関するもの、アスベストの吸入防止のための対処法などと多岐にわたる。

問25-4 それを聞いて、あなたは行動する際になにか気がつけたことはありましたか。【〇は1つ】

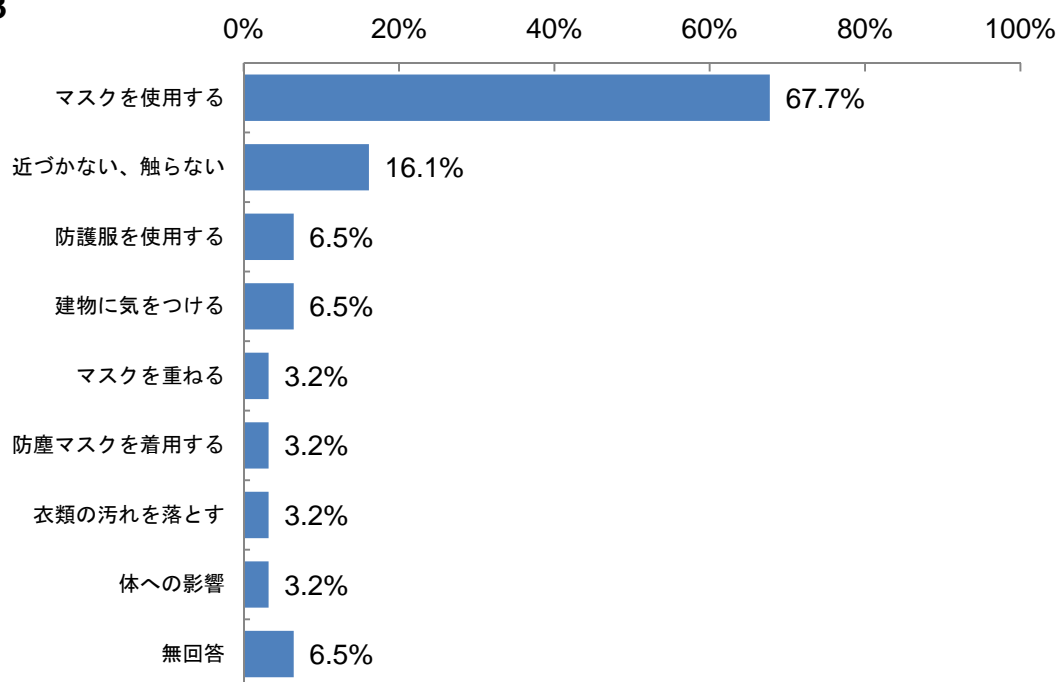
(行動の際に気がつけたこと)



これらの情報を入手した際に、行動する際に「気がつけたことはなかった」方が半数以上を占めている。

(行動の際に気がつけたこと：具体的な内容)

n=33



これらの情報を入手した際に気がつけた内容として、マスクの着用が7割弱（21名）と最も多く、次いで「近づかない、触らない」（5名、16.1%）、「防護服を使用する」（2名、6.5%）、「建物に気がつける」（2名、6.5%）と続く。

2.5.4 まとめ

アスベストに関して、9割以上が「知っている」もしくは「聞いたことがある」と回答しており、そのうち9割以上の方が震災前から「知っている」もしくは「聞いたことがある」と回答している。情報の入手時期としては2000年代が105名（37.5%）と最も多く、情報の入手元としては「テレビ」が8割弱と最も多い。

身の回りにアスベストがあるのを「見たことがある」もしくは「あると思う」との認識をもっている方は113名（34.7%）であった。具体的には、「壁」が43名（38.1%）と最も多く、次いで「学校（保育園、幼稚園、その他教育施設等）」（40名、35.4%）、「天井」（36名、31.9%）と続く。

また、被災後に被災後にアスベスト対策について「見た、もしくは聞いたことがある」方は3割弱（84名）で、情報の入手時期は7月以降が31.0%（26名）と最も多く、震災発生から1ヶ月以内に入手した方は半数弱であった。その際、初めての情報の入手先は「テレビ」が27.4%（23名）と最も多く、その内容はアスベストの処理に関するものや、アスベストの危険性に関するもの、アスベストの吸入防止のための対処法などと多岐にわたる。その情報を受けて行動する際に「気をつけたことがあった」方は4割程度（33名）で、具体的な内容としてはマスクの着用が7割弱（21名）と最も多かった。

3. まとめ

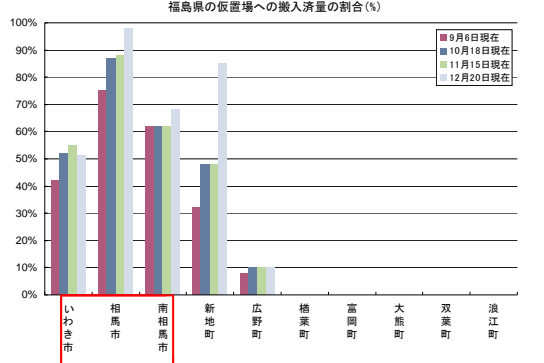
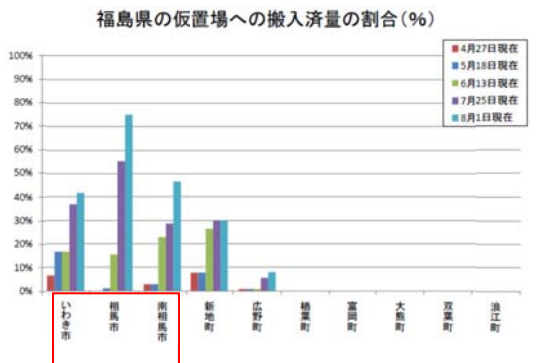
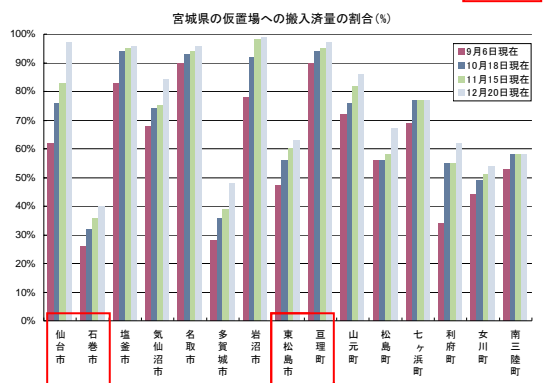
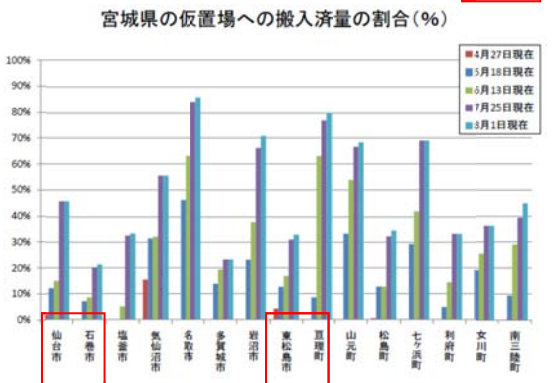
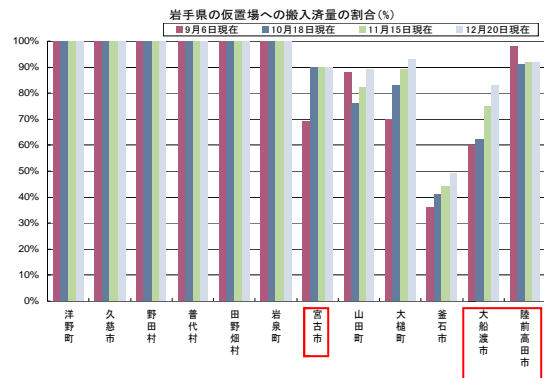
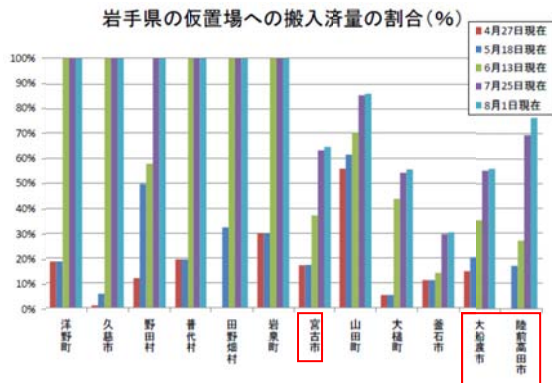
被災前の職業で、回答者の認識として「アスベスト」または「石綿」を取り扱ったことが「あると思う」方が 15 名（7.2%）であった。

被災直後については、短時間で避難された方が多い。

また、避難後の行動については、多くの時間を避難場所の中で生活された方が多く、建物が倒壊した地域に一度でも立ち入ったことがある方は 234 名（71.8%）であった。「自主的な活動（団体等に属さない活動）」で立ち入った方が時期を問わず 7 割以上いた。立ち入り時間が短時間であったこと、また、立ち入り頻度も時間が経過するにつれ減少していったが、期間を問わず「ほぼ毎日」立ち入った人が 15%前後いたことに留意すべきと思われる。

さらに、本調査対象の 10 市町を含む沿岸市町の震災後のがれき撤去状況について整理した。その結果は下表のとおりである。仮置き場への搬入済み災害廃棄物の割合は 4 月で最も低く、その後 5 月～12 月にかけて時間経過に伴い、搬入済み量の割合は増加傾向である。本調査対象の 10 市町の中では相馬市が 98%と進んでいる一方、石巻市は 40%であり、これからさらに進んでいくことが想定される。

以上のことを踏まえ、本年度調査のさらに詳細な集計分析や被災地域での継続的な石綿ばく露の実態把握について検討する必要があると思われる。



(環境省公開資料より転載、もしくは作成)

参考資料1

挨拶状

アンケート調査・ご協力をお願い

平成 23 年 3 月 11 日に発生しました東日本大震災により、被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げますとともに、亡くなられた方々の御冥福をお祈り申し上げます。

今回の大震災では、建築物の倒壊等により、石綿（アスベスト）の飛散が懸念されていることから、大気濃度調査や防じんマスク着用の周知徹底など、石綿の飛散及びばく露防止のための対策が進められているところです。

現在までのところ、がれき集積所などでは通常の大気環境の状況と大きな変化はないことが確認されていますが、石綿による健康被害は、石綿を吸ってから非常に長い年月（35 年前後）を経て発症することから、被災地の現状について情報収集を行うことが将来の健康相談の実施等に役立つものと考えられます。このため、被災地域に居住し被災された方々に、石綿ばく露に関連する情報である被災前の職歴や被災後の居住歴、避難所での生活の様子等をおたずねするアンケートを実施することとしました。

この調査では、皆様からの聞き取り調査の結果を取りまとめることにより、被災地における石綿ばく露の現状を記録するための貴重な基礎資料となります。何卒、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

尚、ご回答いただいた内容は、全て個人を特定されない形でとりまとめをさせていただく他、個人情報扱いについては十分な配慮を行い、本調査の趣旨以外の目的で使用することは一切ありません。

平成 24 年 2 月

環境省環境保健部石綿健康被害対策室

このアンケート調査についてご不明な点がございましたら、下記までお問合せください。

調査の進め方、内容等に関するお問合せ

(株)サーベイリサーチセンター 東北事務所

調査担当：太田、根本 TEL：0120-155-075 FAX：022-225-3866

* 受付時間 9:00～17:00

調査実施主体

エム・アール・アイ リサーチアソシエイツ(株)

担当：^{くつかわ}沓川、油目 TEL：03-3518-8431

委託元

環境省環境保健部石綿健康被害対策室

担当：伊藤、泉 TEL：03-5521-6558

參考資料2

調查票

アンケート調査票

平成24年 2月 実施

< 記入上の注意 >

1. ご本人がお答えください。氏名は記入しないでください。
2. ボールペン、または、濃い鉛筆で記入ください。
3. お答えは、設問ごとに【 は一つ】、【 は該当するものいくつでも】など指定されていますので、当てはまる番号を で囲んでください。
4. 特に指定のない設問は全員がお答えください。設問に矢印(→)がある場合は、該当者のみ、その矢印にそってお進みください。
5. 「その他」を選択した場合は、その内容を具体的にご記入ください。
6. この調査票についてのお問い合わせは、下記へお願いします。

調査の進め方、内容等に関するお問合せ

(株)サーベイリサーチセンター 東北事務所

調査担当：太田・根本・大江 TEL：0120-155-075

* 受付時間 9:00～17:00

調査主体

エム・アール・アイ リサーチアソシエーツ(株)

担当：^{くつがわ}沓川、油目 TEL：03-3518-8431

委託元

環境省環境保健部石綿健康被害対策室

次のページからアンケートの設問となります。

被災前の状況についてお伺いします。

問1 被災前の居住地をご回答ください。【 は1つ】

- | | |
|-------------|------|
| 1 同一市町内 | 3 県外 |
| 2 同一市町外（県内） | |

問2 被災前の居住地に住んでいた年数をご回答ください。【 は1つ】

- | | |
|---------------|---------------|
| 1 1年未満 | 5 30年以上 40年未満 |
| 2 1年以上 10年未満 | 6 40年以上 50年未満 |
| 3 10年以上 20年未満 | 7 50年以上 |
| 4 20年以上 30年未満 | 8 不明 |

問3 被災前の居住家屋の構造をご回答ください。【 は1つ】

- | | |
|--------------|---------------|
| 1 木造 | 4 その他(具体的に:) |
| 2 鉄筋コンクリート造り | 5 不明 |
| 3 鉄骨造り | |

問4 被災前の居住家屋の築年数をご回答ください。【 は1つ】

- | | |
|---------------|---------------|
| 1 1年未満 | 5 30年以上 40年未満 |
| 2 1年以上 10年未満 | 6 40年以上 50年未満 |
| 3 10年以上 20年未満 | 7 50年以上 |
| 4 20年以上 30年未満 | 8 不明 |

**問5 被災前の居住家屋周辺で以下の施設、構造物等が近くにありましたか。
【 は該当するものいくつかでも】**

- | | |
|------------------------|-------------------|
| 1 建材物置場 | 6 体育館 |
| 2 自動車修理工場 | 7 駅 |
| 3 廃棄物の回収事業所・処分場 | 8 駐車場 |
| 4 造船所 | 9 倉庫（冷蔵・冷凍施設含む） |
| 5 学校（保育園、幼稚園、その他教育施設等） | 10 上記の施設、構造物は無かった |

問6 被災前の職業をご回答ください。【 は1つ】

- | | |
|--------------|---------------|
| 1 自営業 | 4 学生 |
| 2 勤め人(パート含む) | 5 無職 |
| 3 主婦 | 6 その他(具体的に:) |

< 問7は、問6で「1自営業、2勤め人(パート含む)」と答えた方におたずねします。その他の方は、問9にお進みください。 >

→ **問7 被災前の職業(作業)で「アスベスト」または「石綿」を扱ったことがありますか。【 は1つ】**

- | |
|---------------------|
| 1 あると思う(具体的な作業内容:) |
| 2 ないと思う |

< 問8は、問7で「1あると思う」と答えた方におたずねします。「2ないと思う」と答えた方は、問9にお進みください。 >

→ **問8 「アスベスト」または「石綿」を取り扱った職業(作業)に従事していた年数(合計)をご回答ください。【 は1つ】**

- | | |
|--------------|---------------|
| 1 1年未満 | 4 10年以上 15年未満 |
| 2 1年以上 5年未満 | 5 15年以上 20年未満 |
| 3 5年以上 10年未満 | 6 20年以上 |

裏面に続きます。

地震発生直後の状況についてお伺いします。

問9 地震発生時にどちらにいましたか。【 は1つ】

1 自宅	5 港湾・海岸
2 会社・学校	6 海上
3 上記(自宅・会社・学校)以外の 建物の中	7 乗り物で移動中
4 農地	8 その他(具体的に:)

< 問10は、問9で「1自宅、2会社・学校、3上記(自宅・会社・学校)以外の建物の中」と答えた方におたずねします。その他の方は、問11にお進みください。 >

→ 問10-1 建物内にいた場合、当該の建物が建設されてからどの程度経過しているか、わかる範囲でご回答ください。【 は1つ】

1 それほど経過していない(新しい建物)	3 経過している(少し古い建物)
2 やや経過している(少し新しい建物)	4 かなり経過している(古い建物)
5 覚えていない、わからない	

→ 問10-2 上記の建物の構造をわかる範囲でご回答ください。【 は1つ】

1 木造	4 その他(具体的に:)
2 鉄筋コンクリート造り	5 不明
3 鉄骨造り	

→ 問10-3 上記の建物は、なにか被害がありましたか。最も近いものをご回答ください。【 は該当するものいくつでも】

1 地震の揺れによって全壊・全焼した	3 津波によって流出または全壊した
2 地震の揺れによって半壊・一部損壊した	4 津波によって半壊・一部損壊した
5 建物に被害はなかった	6 わからない

避難時の状況についてお伺いします。

問 1 1 避難行動時の移動手段をご回答ください。【 は1つ】

1 歩いて避難した	4 自動車での避難した
2 自転車で避難した	5 船で避難した
3 バイクで避難した	6 その他(具体的に:)

問 1 2 避難先をご回答ください。【 は1つ】

1 教育施設(保育園・幼稚園・学校)	7 体育館・運動施設
2 職場	8 神社・お寺
3 公民館・集会所等	9 自治体施設(役場・庁舎等)
4 福祉施設(老人ホーム等)	10 知人、親戚宅
5 宿泊施設(ホテル・民宿等)	11 その他(具体的に:)
6 医療施設(病院・診療所等)	

問 1 3 避難行動時に以下の施設、構造物の近くを通過もしくは、見た覚えがありますか。【 は該当するものいくつかでも】

1 建材物置場	6 体育館
2 自動車修理工場	7 駅
3 廃棄物の回収事業所・処分場	8 駐車場
4 造船所	9 倉庫(冷蔵・冷凍施設含む)
5 学校(保育園、幼稚園、その他教育施設等)	10 上記の施設、構造物は無かった
	11 覚えていない、わからない

問 1 4 避難行動を開始してから避難先に到着するまで、どれくらいの時間がかかりましたか。【 は1つ】

1 15分未満	4 1時間以上3時間未満
2 15分以上30分未満	5 3時間以上5時間未満
3 30分以上1時間未満	6 5時間以上

裏面に続きます。

避難中の生活についてお伺いします。

問15 避難生活場所（仮設住宅を除く）の近くに、以下の建物、構造物等がありましたか。【 は該当するものいくつかでも】

1 建材物置場	6 体育館
2 自動車修理工場	7 駅
3 廃棄物の回収事業所・処分場 （がれき集積所）	8 駐車場
4 造船所	9 倉庫（冷蔵・冷凍施設含む）
5 学校（保育園、幼稚園、その他教 育施設等）	10 運搬道路等
	11 上記の施設、構造物等は無かった

問16 避難生活場所（仮設住宅を除く）での過ごし方について最もあてはまるものをご回答ください。【 は1つ】

1 大半の時間を避難生活場所（仮設住宅を除く）の屋内で過ごした
2 どちらかという避難生活場所（仮設住宅を除く）の屋内で過ごした
3 ほとんど避難生活場所（仮設住宅を除く）の屋内にはいなかった（屋外で過ごした）

問17 自宅や職場などの建物が倒壊した地域へ立ち入りをしていましたか。【 は1つ】

1 立ち入りをしていた
2 立ち入りをしていない

< 問18は、問17で「1立ち入りをしていた」と答えた方におたずねします。「2立ち入りをしていない」と答えた方は、問19にお進みください。 >

問18 自宅や職場などの建物が倒壊した地域への立ち入りの状況について伺います。それぞれの項目について、あてはまるものを選んでください。

	3 月中	4、 5月 (GW 前後)	6、 7月 (お盆 前)	8 ~ 12 月
(1)自宅や職場などの建物が倒壊した地域への立ち入り頻度をご回答ください。 【は1つ】	1 ほぼ毎日 2 1週間に4、5回程度 3 1週間に2、3回程度 4 半月に1回程度 5 1ヶ月に1回程度 6 3月中は立ち入っていない 7 不明	1 ほぼ毎日 2 1週間に4、5回程度 3 1週間に2、3回程度 4 半月に1回程度 5 1ヶ月に1回程度 6 2ヶ月に1回程度 7 4、5月中は立ち入っていない 8 不明	1 ほぼ毎日 2 1週間に4、5回程度 3 1週間に2、3回程度 4 半月に1回程度 5 1ヶ月に1回程度 6 2ヶ月に1回程度 7 6、7月中は立ち入っていない 8 不明	1 ほぼ毎日 2 1週間に4、5回程度 3 1週間に2、3回程度 4 半月に1回程度 5 1ヶ月に1回程度 6 2ヶ月に1回程度 7 3ヶ月に1回程度 8 8~12月中は立ち入っていない 9 不明
(2)自宅や職場などの建物が倒壊した地域で、実施された活動をご回答ください。 【実施した時間が最も長い項目1つに、その他実施した項目すべてに】	1 自宅や周辺のがれきの撤去・運搬 2 勤務先や周辺のがれきの撤去・運搬 3 自宅・勤務先や周辺以外のがれきの撤去・運搬 4 建物の解体、除去作業 5 物資の運搬や支援 6 泥だし、泥かき 7 倒壊家屋への立ち入り 8 その他()	1 自宅や周辺のがれきの撤去・運搬 2 勤務先や周辺のがれきの撤去・運搬 3 自宅・勤務先や周辺以外のがれきの撤去・運搬 4 建物の解体、除去作業 5 物資の運搬や支援 6 泥だし、泥かき 7 倒壊家屋への立ち入り 8 その他()	1 自宅や周辺のがれきの撤去・運搬 2 勤務先や周辺のがれきの撤去・運搬 3 自宅・勤務先や周辺以外のがれきの撤去・運搬 4 建物の解体、除去作業 5 物資の運搬や支援 6 泥だし、泥かき 7 倒壊家屋への立ち入り 8 その他()	1 自宅や周辺のがれきの撤去・運搬 2 勤務先や周辺のがれきの撤去・運搬 3 自宅・勤務先や周辺以外のがれきの撤去・運搬 4 建物の解体、除去作業 5 物資の運搬や支援 6 泥だし、泥かき 7 倒壊家屋への立ち入り 8 その他()
(3)(2)の項目について、活動形態をご回答ください。 【は該当するものいくつでも】	1 自主的な活動(団体等に属さない活動) 2 地域団体(消防団、自治会等)での活動 3 アルバイトとしての活動 4 仕事としての活動 5 その他()	1 自主的な活動(団体等に属さない活動) 2 地域団体(消防団、自治会等)での活動 3 アルバイトとしての活動 4 仕事としての活動 5 その他()	1 自主的な活動(団体等に属さない活動) 2 地域団体(消防団、自治会等)での活動 3 アルバイトとしての活動 4 仕事としての活動 5 その他()	1 自主的な活動(団体等に属さない活動) 2 地域団体(消防団、自治会等)での活動 3 アルバイトとしての活動 4 仕事としての活動 5 その他()
(4)1回あたりの平均活動時間をご回答ください。 【は1つ】	1 1時間未満 2 1時間以上3時間未満 3 3時間以上5時間未満 4 5時間以上7時間未満 5 7時間以上 6 不明	1 1時間未満 2 1時間以上3時間未満 3 3時間以上5時間未満 4 5時間以上7時間未満 5 7時間以上 6 不明	1 1時間未満 2 1時間以上3時間未満 3 3時間以上5時間未満 4 5時間以上7時間未満 5 7時間以上 6 不明	1 1時間未満 2 1時間以上3時間未満 3 3時間以上5時間未満 4 5時間以上7時間未満 5 7時間以上 6 不明

石綿（アスベスト）に関する意識についてお伺いします。

問19 「アスベスト」または「石綿」のことを聞いたり、読んだりして知っていますか。【 は1つ】

- 1 知っている
- 2 聞いたことがある
- 3 聞いたことがない

< 問20は、問19で「1知っている」、「2聞いたことがある」と答えた方におたずねします。「3聞いたことがない」と答えた方は、問22にお進みください。 >

→ 問20 「アスベスト」または「石綿」のことを知ったのはいつ頃ですか。【 は1つ】

- 1 震災発生前から（いつ頃ですか： 年ころ）
- 2 震災発生後

< 問21は、問20で「1震災発生前から」と答えた方におたずねします。「2震災発生後」と答えた方は、問22にお進みください。 >

→ 問21 「アスベスト」または「石綿」に関する情報を入手した先はどちらでしたか。【 は該当するものいくつかでも】

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1 テレビ | 6 ツイッターやSNSなど |
| 2 ラジオ（AMやFM） | 7 口コミ |
| 3 新聞 | 8 役所、警察、消防署などからの情報 |
| 4 インターネット（パソコン） | 9 その他（具体的に： ） |
| 5 インターネット（携帯電話） | 10 どこから入手したか覚えていない |

問22 あなたの身の回りに「アスベスト」または「石綿」があるでしょうか。【 は1つ】

- 1 見たことがある
- 2 あると思う
- 3 ないと思う

< 問23は、問22で「1見たことがある」、「2あると思う」と答えた方におたずねします。「3ないと思う」と答えた方は、問24にお進みください。 >

→ 問23 「アスベスト」または「石綿」があると思う場所や使われていると思う物が以下にありますか。【 は該当するものいくつかでも】

- | | |
|------------------------|------------------|
| 1 造船所 | 7 駅 |
| 2 建材物置場 | 8 駐車場 |
| 3 自動車修理工場 | 9 倉庫（冷蔵・冷凍施設含む） |
| 4 廃棄物の回収事業所・処分場 | 10 家（住宅、寮、マンション） |
| 5 学校（保育園、幼稚園、その他教育施設等） | 11 壁 |
| 6 体育館 | 12 天井 |

問24 震災後にアスベスト対策に関する情報を見た、聞いたことがありますか。
【は1つ】

- | |
|-------------------|
| 1 見た、もしくは聞いたことがある |
| 2 見ていない、聞いていない |

<問25は、問24で「1見た、もしくは聞いたことがある」と答えた方におたずねします。「2見ていない、聞いていない」と答えた方は、F1にお進みください>

→ 問25-1 震災発生後にアスベスト対策に関する情報を初めて見た、聞いたのはいつですか。【はひとつ】

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1 震災発生後1週間以内 | 5 震災発生後2ヶ月以内(5月頃) |
| 2 震災発生後2週間以内 | 6 震災発生後3ヶ月以内(6月頃) |
| 3 震災発生後3週間以内 | 7 それ以降(7月以降) |
| 4 震災発生後1ヶ月以内(4月頃) | |

→ 問25-2 震災発生後にアスベスト対策に関する情報を入手した先はどちらでしたか。【初めに入手した先ひとつに、その後に入手した先で該当するものすべてに】

- | | |
|----------------------|--------------------|
| 1 テレビ | 7 ツイッターやSNSなど |
| 2 ラジオ(通常のAMやFM) | 8 口コミ |
| 3 さいがいエフエム(コミュニティFM) | 9 役所、警察、消防署などからの情報 |
| 4 新聞 | 10 その他(具体的に:) |
| 5 インターネット(パソコン) | 11 どこから入手したか覚えていない |
| 6 インターネット(携帯電話) | |

→ 問25-3 それはどのような内容でしたか。【自由記述】

→ 問25-4 それを聞いて、あなたは行動する際になにか気をつけたことはありましたか。【は1つ】

- | |
|-------------------------|
| 1 気をつけたことがあった(具体的な内容:) |
| 2 気をつけたことはなかった |

あなたご自身のことについてお伺いします。

F 1 年齢をご回答ください。【 は1つ】

1 10代	5 50代
2 20代	6 60代
3 30代	7 70代以上
4 40代	

F 2 性別をご回答ください。【 は1つ】

1 男性	2 女性
------	------

ご意見・ご要望

アスベストに関してのご意見・ご要望等がございましたらご自由にご記入ください。

ありがとうございました。